

東京瓊林

No.153
2025.3



提供：長崎スタジアムシティ



瓊林会 東京支部

長崎高等商業学校 校歌

牛島 秀雄 作詩 島村 吉門 作曲

<p>5 三年鍛へし此の腕 覇者の冠飾るべく 希望輝く星影に</p>	<p>4 桂の水棹蘭の漿 行手を啓す商神の 寄せ来る権力集う富</p>	<p>3 凶南の翼取めつつ 健児五百の渾身に 香しき哉校風は</p>	<p>2 扇嶼の沖に沈む陽の 龜嶺の山の夕ぐもに 見よ靈鶴の羽ばたきて</p>	<p>1 暁星淡く瞬きて 海高鳴りて新潮に 此処の水門に運びたる</p>
<p>競ひの場に矛執れば 橄欖いまや若葉しぬ いざや謳はむ国の栄</p>	<p>月の御船に打ち乗りて 指す俎に漕ぎ行けば 是ぞ吾儕が使命なる</p>	<p>扶揺万里の風を待つ 自彊の精神漲りて 虚空に高く薫るなり</p>	<p>彼方黄金の波立ちて 奇しき福利の響あり 翔けるは何処西の空</p>	<p>金鷄夢を破るとき 文華を西の国人が 光栄ある瓊の浦曲哉</p>

瓊林会東京支部所在地



瓊林会 東京支部

〒 160-0004
東京都新宿区四谷 1-10-2
長崎県東京産業支援センター 301
T E L : 03-6240-0532
E-mail : info@tokyo-keirin.jp

ホームページ ;
<http://tokyo-keirin.jp>

【アクセス】

- ・ JR 中央線・JR 総武線 「四ツ谷駅」 四谷口 徒歩 3 分
- ・ 地下鉄 東京メトロ丸の内 「四ツ谷駅」 赤坂口 徒歩 3 分
- ・ 地下鉄 東京メトロ南北線 「四ツ谷駅」 四谷口 徒歩 3 分



巻 頭 言



支部長 国広 昭彦

本年 2025 年は母校創立 120 周年の年です。人に喩えれば、2 巡目の還暦である“大還暦”を迎える大変おめでたい年に当たります。素晴らしい歴史と伝統です。この 120 年を繋いで頂いた全ての同窓生並びに教職員の皆様、支えて頂いた地域の皆様に改めて感謝したいと思います。

さて、120 周年ということで、母校創立時を少し振り返りたいと思います。長崎大学経済学部の前身である官立長崎高等商業学校は 1905 年（明治 38 年）3 月 28 日に開学しました。当時の日本は、前年 1904 年 2 月に始まった日露戦争の真っ只中にありました。明治維新を経て近代化に舵を切ったと言えアジアの小国日本が、国力 10 倍の超大国ロシアに戦いを挑み、“有史以来の国難”と言われました。特に日本の国家財政は厳しく、戦費の相当量を海外での資金調達に頼っていました。財政難から戦争継続も困難な状況でした。長崎高商開学直前（1905 年 3 月）の「奉天会戦」では、日露両国 60 万の将兵が激突した史上最大の陸上戦となり、極寒の大陸で、弾薬も尽き食料も無い状況で、日本の尊き若者 15,892 人もの犠牲を払いながら奇跡的な逆転勝利となりました。一方、海上には世界最強の海軍と言われたロシアバルチック艦隊が大艦隊を率い、刻一刻と日本に迫っていました。日本の存亡も危ぶまれる中で、長崎高等商業学校は片淵の地に産声を上げたのです。当時の明治政府の英断並びに学校関係者の学校創設の努力は大変なものであったと推測します。国の行方も分からない、戦時下で国家予算も乏しい、よくぞこの環境下で長崎高等商業学校という高等教育機関を設立させたと思います。大砲の玉を節約してでも、将来の日本経済を担う若者を育てると強い意志と覚悟を感じ、これこそ開学の理念と学校創設の使命に通じると思います。

片淵にキャンパスを建てたのも大変意味あることだと思います。片淵は、江戸中期より長崎の富裕層の別荘地でもありました。経済学部の新大工寄りのグラウンド端を少し登ったところに「心田庵」という 530 坪もの日本庭園があります。江戸時代唐通事であった何兆晋（がちょうしん）の別荘が今も残っています。静かな別荘地片淵は、自然に恵まれ、学生が勉学に相応しい学びの場としても最適であったということです。

俳聖松尾芭蕉の教えに『不易流行』（ふえきりゅうこう）という言葉があります。これは、「不易すなわち、変えてはならない伝統やしきたりを知らなければ、基礎が成り立たない。しかし、流行すなわち時代の変化に沿った新しさも知らなければ、新たなものは生まれない。」ということです。国難の中、同時代の同世代の多くの若者の犠牲の上に長崎高等商業学校は宿命的に創立されたととも言えます。明治の先人の知恵や学校設立の精神及び理念は、「不易」として大事に継承しなければならないと思います。そして、母校 120 年の歴史と伝統こそ、長崎大学経済学部のアイデンティティの源だと確信します。この基本の上に時代の要請に沿う学問「流行」の追及を期待したいと思います。引き続き宜しくお願いします。



『東京瓊林』第153号 目次

瓊林会東京支部の案内図／長崎高等商業学校校歌 ……表紙裏面
巻頭言 / 瓊林会東京支部支部長 国広 昭彦

【支部活動報告】

東京支部定時総会令和6年報告及び令和7年ご案内	……1
キャリアデザイン講師での所感	学51 高木 綾子 ……2
キャリアデザイン体験記	学36 石丸 龍彦 ……4
『瓊林友の会』活動状況	学12 川口 恒夫 ……6

【投稿記事】

岐路	学19 山浦 久司 ……8
ローカル鉄道のある風景を求めて・友の歌とともに～北海道・東北篇その2～	……13
	学29 川崎 圭一、柳原康二
しまなみ海道サイクリングツアー	学29 長岡 健 ……15
ブラジルの思い出	学30 塚島 公明 ……19
第64回日本寮歌祭に参加して	学31 北浦 弘徳 ……21
長大経済バスケット部活動報告	学35 堀田 毅 ……24
西陵ラガー OB 会関東支部の活動について	学35 林田 圭史 ……26

【サークル・同好会だより】

長崎マンドリンアンサンブル (NME) 第18回ファミリーコンサート開催	……32
	学22 岩崎 茂
囲碁海外遠征 (4) ヨーロッパ編	学12 高本 正 ……34
東京瓊林俳句	学12 稲山 清紀 ……37

【お知らせ】

長崎県の産業振興に向けて	公益財団法人 長崎県産業振興財団 ……38
	東京企業誘致センター長 板羽 義則
選ばれるまち SASEBO をめざして	佐世保市東京事務所 中山 健司 ……40
長崎市東京事務所より	長崎市東京事務所 渡辺 清英 ……42
大村市より	大村市企画政策部企画政策課 ……44
	土本 裕美

【事務局より】

敬弔	……46
前年度会費納入者一覧	……47
前年度寄付者一覧	……49
2025年度東京支部収支予算案	……50
瓊林会東京支部役員体制	……51
お願い	……52
世代を繋ぐ同窓の絆	……53
表紙・編集後記	……55

令和 6 年度東京支部定時総会のご報告

去る 7 月 13 日（土）、令和 6 年度瓊林会東京支部定時総会を開催しました。
総会には、母校宍倉学部長を来賓として迎え、懇親会を含む通常形式での開催でした。
講演会では、学 19 回山浦久司様（現明治大学名誉教授）による近著「琴海の嵐」からご講演
をいただきました。本総会には、100 名の幅広い世代の会員に参加頂きました。

開催日：令和 6 年 7 月 13 日（土） / 会場：主婦会館プラザエフ（千代田区六番町 15）

式次第：

1. 開会
 3. 瓊林会東京支部 国広支部長挨拶
 4. 議題（議長 国広支部長）
- 第 1 号議案 令和 5 年度決算報告
第 2 号議案 令和 6 年度活動計画と予算案
第 3 号議案 役員交代 ※参加者 100 名、委任状 157 名で全議案承認

令和 7 年度東京支部定時総会のご案内

日時：令和 7 年 7 月 12 日（土） 11：00（開会）～ 15：30（閉会予定）

会場：主婦会館 プラザエフ

東京都千代田区六番町 15

JR 四ツ谷駅 麴町口 徒歩 1 分、地下鉄 四ツ谷駅 徒歩 3 分

式次第： 11：00～令和 7 年度東京支部定時総会

第 1 号議案 令和 6 年度決算報告

第 2 号議案 令和 7 年度活動計画と予算案

第 3 号議案 役員交代 ほか

11：30～ 講演会

13：00～ 懇親会（15：30 閉会予定）

会費：8,000 円（予定）※詳細については、別途ご案内いたします。

第 64 回日本寮歌祭のご報告

去る 11 月 24 日（日）、第 64 回日本寮歌祭が日暮里のホテル日暮里ラングウッド開催され、
瓊林会東京支部として、昨年に引き続き参加いたしました。

当日は、昨年を上回る 24 名の参加により、参加 60 校の中で、旧制第四高等学校（現金沢大学）
に続き 2 番目の大所帯で、長崎高商の校歌「暁星淡く」を高らかに歌い上げました。参加頂い
た皆様に感謝申し上げます。

キャリアデザイン講師での所感①

学 51 回 高木 綾子

2024 年 10 月、長崎大学経済学部にて「キャリアデザイン講座」の講師を務める機会をいただきました。この講座は、学生が自らのキャリアを主体的に設計する力を養うことを目的とし、現代の職業観や働き方について社会人へのヒアリングをワークショップ形式で行うものです。講座自体も学生中心に進められ、班ごとに企業研究を踏まえた事前質問を準備し、当日の運営ではファシリテーションも行うなど、非常にスムーズに進行しました。私自身も講義を楽しみながら終わることができました。本稿では、その講義内容と質疑応答の様子、そして講師を務めた私の感想をまとめます。

講座の冒頭では、一緒に講師を務めた西岡さんと共にこれまでのキャリアや現在の職場・業務内容についてご説明しました。私は 2003 年に日本電気株式会社 (NEC) に入社し、ネットワーク SE やブランド戦略、新規事業開発などを経て、現在は広報を担当しています。私のパートでは、これまでの業務と共に、現在取り組んでいる実際の広報戦略や SNS プラットフォームごとの特性について説明しました。

例えば、SNS では、プラットフォームに応じたコンテンツ制作が重要であること、そして最新のトレンドを迅速に捉えることで影響力を高められる点を解説しました。学生たちは日常的に SNS を利用しているためか、このテーマには非常に高い関心が寄せられました。



キャリアデザイン講座の風景

キャリアデザイン講師での所感②

学 51 回 高木 綾子

質疑応答の時間では、学生から多くの質問を受けました。特に、広報業務における具体的なチャレンジや成功例、日々の業務の中でどのようにメディア戦略を実行しているかといった実践的な内容について興味を持たれていました。私自身の経験を共有しながら、広報活動ではクリエイティブなアイデアとデータ分析の両立、さらには日々変わる市場動向に気を配ることが重要であると強調しました。

また、最近の働き方に関する質問も活発でした。テレワークの割合や残業時間のコントロール、グループメンバーとのコミュニケーション方法などについて説明しました。学生の皆さんはコロナ後の環境が個々人の働き方やワークライフバランスにどのように影響を与えるかを理解し、自らの進路設計に活かそうとしている様子が伺えました。

最後に、今回の講座を通じて、私自身も新しい気づきを得ることができました。学生の皆さんが抱えるキャリアに対する不安や期待に触れ、彼らのこれからの成長を支援する意義を改めて感じました。これからも、彼らが自己実現を遂げるための一助となれるよう努めていきたいと思えます。

長崎大学の関係者の皆様、講座運営にご協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。未来を担う若者たちの支援に寄与できたことを光栄に思います。

キャリアデザイン講座体験記①

学 36 回 石丸 龍彦

昨年 1 1 月に、「キャリアデザイン講座」の講師をさせていただきましたので、その感想を体験記として報告させていただきます。(Z 世代に対する私見も入っており、その点はご容赦ください。)

当日は少し早めにキャンパスに着き、久しぶりの「片淵キャンパス」を懐かしく思いつつ、学内をグルっと一周歩きました。当時(37 年前)とほとんど変わらない景観、雰囲気、学生時代の記憶が随所で蘇ってきました。また、卒業してビジネスマンとなって改めて、高商時代からの歴史の重みを感じ取ることができ、経済学部の OB で



あることを再認識できたことは、大変有り難い機会となりました。(ただ、ラグビー部で練習に励んだ片淵グラウンドが荒地となり、部室も使用されず荒びれていたのは残念でした。経済学部の単独チームで活動している部活がないそうですので、やむを得ないのでしょう・・・)

講義は、2 年生の学生約 40 名。女性が 2 / 3 を占め、男性が大勢で男臭い当時とはだいぶ異なり、明るく柔らかい空気感でした。学 49 回卒の南さん(税理士としてご活躍)とふたりで、90 分間、ワークショップ形式で、学生からの質問を受ける形でやり取りを行いました。

質問は幅広く様々でしたが、女性が多いこともあり、仕事の中身そのものというより、「働き方や休暇取得のこと」「男女の役割の違いや賃金格差」等の質問が中心で、ワークライフバランスへの関心度が高いようです。今と昔の保険会社のワークスタイルの変化を伝えましたが、昭和入社で 24 時間戦うこと(笑)も厭わず、競争に勝つために仕事をしてきた平成初期の時代とは随分と異なり、やはりエンゲージメント重視であることをヒシヒシと感じさせられました。想像はしておりましたが、自分で受け答えをしながら、大きな変化にやや複雑な思いを持ったことも正直な感想です。

ただ、質問の中で男子学生から、「ビッグモーターの一連の事件で、損保会社にどのよ

キャリアデザイン講座体験記②

学 36 回 石丸 龍彦

うな影響があったか」と聞かれ、鋭い質問に思わず身構えましたが、「保険会社と代理店の関係性を大きく揺るがす出来事となった」と答えつつ、学生レベルでもそう感じる事件であったのかと、損保会社関係者として、身をつまされる思いでした。

講義最後に、メッセージとして学生に次のことを伝えました。「可能性は無限にある。自分の興味や強みが何なのかをしっかり考え、職業観やキャリアを見出してほしい。地元志向もいいが、自分のフィールドを小さく構えることなく、大きな世界観で自分のキャリアにチャレンジしてほしい」。どこまで感じ取ってくれたかは未知数ですが、私自身の後輩への思いは伝えたつもりです。情緒的に少し熱く語りましたので、Z世代にはウザいと感じられたかもしれません(笑)。

講義後、講座担当の教授(多分同世代ぐらいでは)との会話では、「今の学生、昔とは随分違うでしょう。競うことは好まないですね・・・」との話もあり、変化した若者の気質を直接感じ取れる、貴重な経験の場ともなりました。

最後に、このような機会をいただいたことに心から感謝申し上げるとともに、経済学部
の卒業生であることに改めて誇りを持ち、これからも微力ながら、大学のため、後輩たちのためにやれることをやっていきたいと思っております。

今後の「長崎大学・経済学部」の発展を切に願っています。

『瓊林友の会』の活動状況①

学 12 回 川口 恒夫

「瓊林友の会」は昨年、創立 45 周年を迎えました。今年は昭和 100 年に当たるようですが、我々昭和生まれの同窓生同士が『同じ気持ちを持ち合い、そして心の拠り所』としての役割を少なからず果たしてきたとっております。第二第三の人生を送るにあたって、シニア同窓会の役割として日頃より平日を中心として活動を続けています。

その中で目玉となるのは『年 2 回発行の会報誌』です。会員の皆さんが幅広いジャンルに亘って自由闊達に寄稿をしてくれております。私たちは会報誌を通じて、元気な先輩方からパワーをいただいています。また、この会報誌は国立国会図書館からの要請を受け、毎号を寄贈し続けています。

次の主な行事は、年に 2 回ほど開催している『散策会』です。昨年秋には世田谷の豪徳寺・松陰神社周遊を行いました。3 月下旬には、都電荒川線～飛鳥山公園の散策を企画しています。散策後の昼食懇親会での談笑も楽しみです。東京支部の皆さんの参加をお待ちしています。

また、随時開催しております『ZOON オンライン談話サロン』は自宅でも参加できるので好評です。

令和 6 年は、①新年に、田中健一さん（学 21）による「情報過多時代の情報力」、②千原篤さん（学 20）による「大久保長安の実像を求めて」、③木村耕三さん（学 9）による「ボーイスカウトの話」、④伊藤正さん（学 18）による「メキシコ留学の話」、⑤林俊也さん（学 23）による「将棋の話」、そして⑥年末には、国広昭彦さん（学 29）による「日本橋人形町と谷崎潤一郎の艶っぽい話」が披露されました。それぞれに含蓄のある興味深い話を聞くことが出来ました。

四谷の事務所での開催時には、ハイブリッド方式により遠く長崎からもオンラインで参加いただいています。

恒例行事として、毎年 1 月には『新春講演会並びに新春懇親会』を開催しています。今年の新年は、田中健一さん（学 21）に「日本の暦文化」というテーマでお話いただきました。5 月の通常総会におきまして、昨年はマンドリン演奏を懇親会の前に開催し非常に良い雰囲気でした。

これからはどうぞ学 20～30 回生代の若手の皆さんの入会を期待しています。この機会に、友の会に興味を持っていただければ幸いです。

『瓊林友の会』の活動状況②

学 12 回 川口 恒夫



会報誌 87 号(3 月号)と 88 号(9 月号)



談話サロン講師の木村さん



新春講演会の講師、瓊林会前会長の田中さん



講師の国広支部長と ZOOM ホストの中尾さん



秋の散策会（松陰神社 鳥居前）

岐路①

学 19 回 山浦 久司

いつの間にか、喜寿を迎える齢になった。と言って、とくに、感慨を込めることもなく、今日を送り、明日も、また明後日も、さらにその後も生を重ね、やがては来るべき寿命を受け入れることになるだろう。

このような心境は、達観したからではない。寿命は人間として生まれてきた以上、^{ことわり}理だが、その日までは、精一杯、^{あが}足掻きながらも生き続けねばならないと観念している。

ただ、最近、心の中にささやかな変化が顕れた。自分の人生を振り返る時間があることである。回顧などという大仰なことではないが、いくつかの「岐路」をくぐり抜けて今に辿り着いた自分史が存在することは確かである。



生まれる際、親を選ぶことができないことは自明としても、その後、さまざまな場面において自分で道を選択しなければならない岐路にぶつかった。

最初の岐路は高校への進学である。大学受験で有名な全寮制の私立校への進学を夢見たものの、わが家に高額な入学金や授業料を払う余裕はなく、自宅から通える範囲で選べる県立高校に入学した。幸いに、奨学生として、授業料は免除され、奨学金も得た。

次は、大学進学である。無論、長崎大学経済学部に進学したが、志望していた東京の大学を受験しなかった。高校在学中に決定通知を得た特別奨学金の権利を浪人することでフイにするリスクを避けたためである。代わりに、大学も、ほぼ無償で卒業できた。在学中、アルバイトもしたが、スポーツと勉学を謳歌した。多分、東京の大学に進学していたら、生活に追われたかもしれない。結果的に、長崎大学を選んだのは正解だったと思う。

次は、卒業後の進路である。青田買いが堂々とまかり通った時代で、ゼミの教授の推薦を受けて、三年生の夏には関西に本社がある都市銀行に内定を得た。しかし、在学中に会計学の勉強を続けているうちに、もう少し、学問を深めたいと思った。そこに、当初抱いていた東京の大学で学びたいという気持ちが再び湧きあがり、その思いを抑えることができず、親の反対を押し切り、一橋大学大学院に進学した。

親からの援助は期待できなかったが、「今度こそは」と、自分の道を自分で選んだ。大人になった証^{あかし}だったのかもしれない。人生の一大決断だったが、不思議に「何とかなる」と思った。大学院でも授業料の免除と特別奨学金を受けたので、まさに「何とかなった」の

岐 路②

学 19 回 山浦 久司

である。

次の決断は、長崎大学のゼミの教授からの「大学に戻ってこい」という誘いを断ったことである。一橋大学で師事した教授が学界や実業界で活躍する様を身近に見て、「もう少し、この先生の下で研究したい」と思い、結局、先生が一橋大学退官後に学長に就任した千葉商科大学に奉職した。その頃には、東京出身の女性を妻に迎えていた。

長崎大学からの誘いを受ければ、両親をはじめとして、身の回りの人たちをハッピーにできると思い、大いに悩んだことは事実だが、研究の目標を定めていた自分にとって最適の道は長崎に戻ることはないと思ったのである。心苦しい決断だった。

次の決断は、千葉大学への転職である。千葉商科大学には九年いたが、もっと多くの研究の機会を得るためには、より有力な大学に籍を置きたいと思った。そこで、学長である恩師の許しを得て、誘いのあった千葉大学に移った。給料はかなり減り、妻にとっては迷惑だったかもしれないが、研究のために堪忍してもらった。

ところが、千葉大学で十数年経ち、博士号も得て教授にもなり、助教授を集めて自分の講座も立ち上げ、これからと思った矢先、あることで大学の執行部との間で確執が生まれた。相手は、大学の制度的ルーティンで当然の措置と思ったのかもしれないが、私にとっては許せず、千葉大学を辞して、明治大学に移った。

これも大きな決断だった。

その頃は、学会でも一定の評価を得ていたために、明治大学で歓迎されたが、そのうちに、政府から思いもよらないオファーを受けた。会計検査院の検査官という大役である。検査官の定員は三名で、国会の承認を得て、天皇から認証を得る。職務は、国の予算の執行を検査することにある。

名誉なことであるが、実は明治大学では、私が中心となり、新しい大学院を立ち上げたばかりで、巨額の設備投資もして、教授陣も集めたところで、その長として、責任のある立場であった。

このようなタイミングで検査官に就任することには躊躇するものがあったが、振り返ってみれば、高校、大学、大学院で受けた奨学金は国民の税金であり、国民に自分の能力を還元する義務もある。また、そもそも国民に奉仕するという、一段高い職責に心が動き、検査官に就任した。

認証式の当日、皇居で天皇（現、上皇）から認証状を下賜されたときの高ぶりは、今も

岐路③

学19回 山浦 久司

心に残っている。

会計検査院には五年ほどいて、最後は会計検査院長に就任し、定年退官後、再び、明治大学に受け入れてもらった。こうして、明治大学で七十歳の定年で退職し、名誉教授として、今に至っている。

以上が、私の大まかな自分史だが、人生の要所々々で直面した岐路での決断次第で別の人生もあったと思う。多分、私の人生は、多くの人にとっては特異なものに映ると思うが、流れに任せず、自分を貫いたことに心残りはない。

今、この齢になって、「琴海の嵐」(文芸社刊)というタイトルの小説を発刊し、新たな道を進もうとしている。長崎が題材なので、恩返しの意味もある。これも人生の送り方の一つだと思うのだが、妻は、余生の道楽だと言う。しかし、私は本気である。今後、どのような岐路が待ち受けているのか、ドキドキしている。

(明治大学名誉教授・元会計検査院長)



ローカル鉄道のある風景を求めて・友の歌とともに

～北海道・東北篇その2～①

写真 川崎 圭二 (学部 29 回卒)
短歌 柳 六三四 (柳原 康二 / 学部 29 回卒)

昨年の「東京瓊林」で「ローカル鉄道のある風景求めて」と題して、鉄道風景写真を掲載いただける機会を得たが、未熟な故に旅の旅情感を諸兄に伝えきれぬと反省、学 29 回同期の柳原君(歌人「柳 六三四」)の助力を得て、その短歌を添えてもらおうとコラボを申入れ快諾を得た。彼は自身の体験をもとに、「失意、不安、感謝、希望」を 31 文字の短歌に綴った。その言霊を操る繊細さと心に刺さる「(歌の)エッセイ」に我が「舌足らず」を補ってもらった。ついては、私の冗長な説明はできる限り割愛して、彼の「歌」の叙情感と諸兄の想像力で「ローカル鉄道のある風景」を楽しんで頂ければ幸甚と思慮する。

1. 富良野線 美瑛 - 美馬牛駅間～美瑛町「新栄の丘」を背景に快走する「富良野ノロッコ号」～



青霞む 美瑛の丘の 裾近く 深緑の風 季節を乗せて

2. 富良野線 西中 - 中富良野駅間～ラベンダー畑で有名な秋晴れの「ファーム富田」にて～



花畑 垣根を越へて 十勝岳 景色の折り目を 列車が走る

ローカル鉄道のある風景を求めて・友の歌とともに

～北海道・東北篇その 2～②

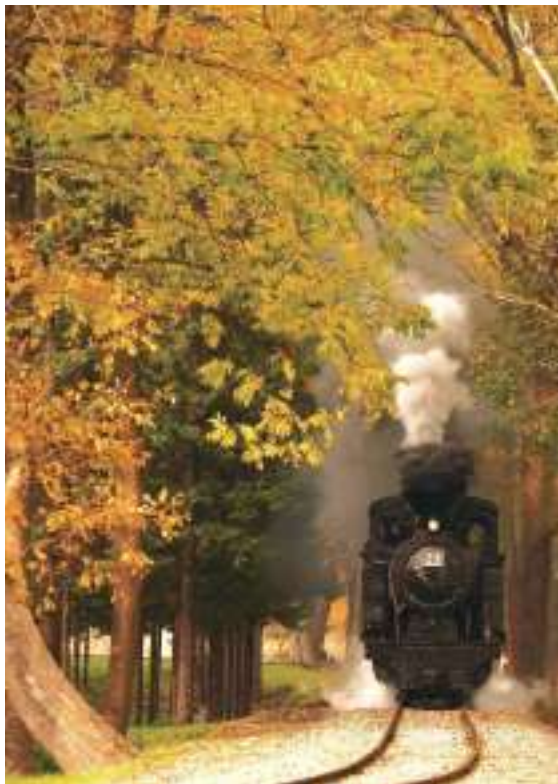
写真 川崎 圭一 (学部 29 回卒)
歌 柳 六三四 (柳原 康二 / 学部 29 回卒)

3. 根室本線 音別 - 厚内駅間 ～太平洋と釧路を遠望する「尺別の丘」にて～



果てしない 空と大地と海を背に 列車は走る 原野を分けて

4. 丸瀬布いこいの森 森林公園～「木材の町 丸瀬布」の森林鉄道として活躍した SL「雨宮 21 号」～
昭和 32 年に現役引退した車両ながら地元有志の努力と後継者育成を重ねつつ、ただの動態保存ではなく実際に定時運行している事に感激と称賛に堪えない。



現役を 退ひて尚 今活きる 君の姿に 奮い立たされ

ローカル鉄道のある風景を求めて・友の歌とともに

～北海道・東北篇その 2～③

写真 川崎 圭二 (学部 29 回卒)
短歌 柳 六三四 (柳原 康二 / 学部 29 回卒)

5. 秋田内陸縦貫鉄道 小淵駅近隣



菜のはなつ 春のかほりに 包まれて 列車の赤は 黄に埋もれゆく

6. 由利高原鉄道 鳥海山ろく線 前郷 - 曲沢駅間～鳥海山が全望を見せた早朝 10 分の幸運な瞬間～



由利の野を 一直線に駆け抜ける！鳥海山の 雄姿見上げて

7. 三陸鉄道 田野畑 - 鳥越駅間～三陸ジオパーク ハイペ沢橋梁にて～



三陸の 鉄路の復興 ここに映ゆ 忘れ得ぬ日の 願ひ叶へて

ローカル鉄道のある風景を求めて・友の歌とともに

～北海道・東北篇その 2～④

写真 川崎 圭二 (学部 29 回卒)
短歌 柳 六三四 (柳原 康二 / 学部 29 回卒)

橋梁は両端をトンネルが挟み列車 2 輛程の長さしかない。シャッターチャンスは一瞬だ。耳を凝らして列車の走行音を追った。手前の巨石は、3.11 東日本大震災の折、津波で運ばれた物。三陸鉄道の全線開通への努力と尽力に渾身からの声援を送りたい。

8. 五能線

～日本海に突き出した半島「行合崎」にて、観光列車「リゾートしらかみ『樵』編成」を追う～



褐色の 無骨な荒磯 横に見て 夕陽に煌めき「しらかみ」は行く

旅先の私に憑依するかのような「柳 六三四」の歌は如何だったろうか？最後に令和 6 年秋の北海道撮影旅行でのお気に入りの一枚、釧網本線札弦(さつつる)駅近く、ロケハンで見つけた「孤高に佇む『第 4 種踏切』」で締めくくる。次回もこのコラボで私達の旅は日本列島を南下する。



「とまれみよ」 北の大地の 踏切が そらを見上げて 君に呟く

柳 六三四 歌集「ハート♡のベランダ」が Amazon Kindle で配信されています。ご関心あればぜひご購読をお薦めします。

しまなみ海道サイクリングツアー①

学29回 長岡 健

経済学部29回生の私は、昨年2月末をもって、43年間の会社生活を卒業し、セカンドライフをスタートしました。

これからは、やってみたいことを、即実行に移そうと思い、3月に長崎で開催された経済学部の同期会に参加しました。

そこで、同期の牧野 陽一郎君と意気投合し、一緒に「しまなみ海道」を自転車で走ろう、ということになりました。

大学時代は、サイクリング部に所属し、全国各地をサイクリングツアーで回っていた私ですが、卒業以来、近場のポタリング(自転車散歩)程度しかやっておらず、いささかの不安がありました。しかし、旅番組やネット上で見るサイクリストの聖地「しまなみ海道」を、ぜひ自転車で走りたい、という憧れがありました。

牧野君は、現役バリバリのサイクリストで、今もショップの仲間同士で、各地を自転車で走っており、しまなみ海道も何度か訪れたことがあるとのこと。

今回は彼にナビゲートしてもらうことで、長年の夢を実現することになりました。

【11月5日、広島～尾道】

広島空港からリムジンバスで広島駅に向かい、ここで久しぶりに呉に住む高校時代の親友と待ち合わせをし、一緒に名物の広島焼を堪能し、近くの広島城に散策に行きました。ここは、日本100名城の一つで、鯉城(りじょう)と呼ばれるように、お堀には、立派な鯉がたくさん泳いでいました。(広島カープの由来)

広島城の天守閣からは、広島市街が一望でき、この街が中州に位置し、水運や海運にも恵まれた立地であることが確認できました。

その後JRで宿泊地の尾道を訪れました。ここは、映画の舞台としても有名で、ロケ地めぐりもしてみたいものでしたが、残念ながらすでに夕闇も迫っていたので断念しました。

夕食で行った店は、尾道水道を見渡すロマンチックな夜景が楽しめ、初老の男二人には、もったいないような気がしました。



【11月6日、尾道～しまなみ海道～ゆめしま海道～生口島】

尾道駅でクロスバイクをレンタルして、いよいよサイクリングツアーの開始です。

尾道水道を隔ててすぐ向こう側にある、その名も向島へは、渡し船でほんの5分程で着きました。

潮風の心地よい香りに浸りながら、しばらく走ると、因島大橋が見えてきました。

ここは、自動車道の下に自転車道・歩道がある珍しい造りでした。

因島は、ハッサクの発祥地としても知られているので、名物のはっさく大福を食べようと「はっさく屋」に行ってみましたが、生憎この日は定休日。残念でした。

その後、しばらくしまなみ海道のルートを離れて、渡し船を乗り継いで、「ゆめしま海道」(弓削島、佐島、生名島)をめぐる。ここは、まだ観光化がされておらず、昔ながらのレトロな港町(漁村)が続き、ノスタルジックな懐かしさを感じました。

しまなみ海道サイクリングツアー②

学 29 回 長岡 健

その後因島に戻り、生口大橋を爽快に走って、生口島に渡りました。

宿泊地の瀬戸田まで、海岸線を走ると、強烈な向かい風に会い、平坦なはずなのに、思いのほかペダルが重く、寄る年波と、日頃の運動不足を痛感しました。

瀬戸田サンセットビーチは、800mもの砂浜が続く美しいビーチで、夏は海水浴で賑わいそうですが、この時期は閑散としていて、波静かな海に癒されました。

宿泊したホテルは、最近建ったお洒落な外観でしたが、レストランも浴室もない（シャワーのみ）今どきのホテルで、多くの宿泊客がサイクリストで、外国人ばかりというのも驚きでした。

夕食には、少し離れた「ちどり」というタコ料理が名物の店に行きましたが、このところ瀬戸内海でもタコの不漁が続き、タコの活き造りは食べられず、残念でした。



【11月7日 生口島～大三島～伯方島～大島～今治～倉敷】

国産レモン発祥の地である生口島のレモン谷を眺めながら、柑橘系の甘い香りを楽しんで走ると、国内最長の斜張橋である多々羅大橋が見えてきました。

ここを渡って大三島に上陸すると、すぐ橋のたもとに、「サイクルオアシス」という休憩スポットがあり、ここにある「サイクリストの聖地」という石碑をバックに記念写真を撮りました。



大三島では、海道に鎮座する神秘のパワースポットと言われる、大山積神社を訪れました。ここは、歴代の武将も戦勝祈願に訪れたところで、宝物館には、国宝級の武具や文化財があり、奥には樹齢2,600年という楠のご神木がオーラを放っていました。

その後、大三島大橋を渡り、「伯方の塩」で有名な伯方島を通り、伯方・大島大橋を渡って大

しまなみ海道サイクリングツアー③

学 29 回 長岡 健

島に着くと、大島水軍ルートを走りました。

ここは、すぐ左手に、見近島、鷓島、能島といった島々が連なり、その近くを流れる海流の激しさが、肌を感じられました。

戦国時代に、ここを拠点として活躍していた「村上水軍ミュージアム」を見学しました。

当時を思わせる展示の数々を見て、彼らがこの地の利を活かして、水軍と水運を担っていたことを実感しました。

大島では、「よしうみローズ館」を散策した後、いよいよ全長 4 km に及ぶ、世界初の三連吊り橋「来島海峡大橋」を渡りました。

日本三大急潮流の一つである来島海峡の絶景を、強風にあおられながら堪能して、いよいよ四国、今治に上陸しました。

思えば、初めて四国に渡ったのは、大学 1 年の夏に、徳島大学主催のサイクルラリーに参加するために、和歌山からのフェリーに乗って徳島に渡って以来 47 年ぶりでした。

最後の橋を渡り終えて今治駅に到着し、ここでクロスバイクを返却し、サイクリングは終了。

今治では、名産のタオルをお土産に買い、高速バスの乗り、福山経由で最終地の倉敷に到着しました。



【11月8日 倉敷市内散策～岡山空港～羽田空港】
倉敷は、前々から一度は訪れてみたいところでした。
倉敷駅からも徒歩圏の「美観エリア」を散策しました。

白壁の土蔵が並び、柳が揺れる倉敷川沿いには、レトロモダンな店や工房が立ち並び、タイムスリップしたような風情を感じました。

倉敷アイビースクエアや倉紡記念館も訪れて、明治から昭和にかけての繊維産業の発展の歴史を知ることができました。



しまなみ海道サイクリングツアー④

学 29 回 長岡 健

この旅の最後に訪れたのは、伝統ある大原美術館でした。

日本初の西洋美術中心の私立美術館として開館して以来 90 年の歴史を持つだけに、建物も重厚で風格を感じさせるものでした。

ここには、モネの「睡蓮」やグレコの「受胎告知」も展示されており、東京では行列覚悟の傑作を、ゆったりと落ち着いた雰囲気堪能できました。



こうして、秋晴れの天気にも恵まれ、充実した 3 日間を過ごして東京に帰ってきました。

生涯スポーツとして取り組もうと思っているサイクリングを、念願のしまなみ海道で楽しみ、歴史と文化、芸術にも触れることができ、一生の思い出になる旅でした。

まだ、セカンドライフは始まったばかり。

これからも健康を維持して、積極的に楽しみたいと思います。

ブラジルの思い出話①

学 30 回 塚島 公明

もう 40 年くらい前の話です。私は大学卒業後、しばらくブラジルのサンパウロ州に住んでいたことがあります。ブラジルは広く、面積は日本の約 23 倍もあり、オーストラリアがすっぽり入る大きさです。

①アマゾン川で魚釣り

ある日、ブラジル人の同僚から「今度の連休にナマズ釣りに行かないか？」と誘われました。近場に行くのかな、と思っていたら、なんと飛行機で 2 時間ほど西に行き、そこから一晩、車で移動し、さらにモーターボートでアマゾン河の支流を遡りました。乾季だったので、水位は比較的、低かったのですが、砂地に簡単な屋根が設置してあるところがあり、そこにテントを張って、3 晩ほど泊まりました。男ばかり 7 名でした。

釣りの前に水泳パンツひとつになり、体中に（顔や耳にも）オリーブオイルを塗ります。そこは湿地帯で、ボハシュドという羽虫がたくさん飛んでいて、体を刺すのです。しばらく釣りをしていると、全身、体についた虫で真っ黒になります。片手にビール、片手に釣り竿を持って、そのまま水の中に入ると、カンジルという小魚がたくさん寄ってきて、体についた虫をきれいに食べてくれます。かなりくすぐったい。（油断するとお尻の穴から入ってくるので、要注意。なお、川底にはエイの様なのがいるので、スリ足で入る。）また陸に上がり、体に油を塗ります。こうして一日が過ぎていきました。釣れたナマズは大きいのが 1m くらいでしたが、雨季には 3～4 m くらいのが釣れるそうです。夜はナマズのフライをかじり、ピング（サトウキビの蒸留酒）やビールを飲みながら、延々とバカ話が続きます。昼、釣りに飽きると漁師が持っていたピストルを撃たせてもらったり、大きな亀をつかまえて、手足を切り取って、昼飯にしたりしました。釣れたナマズは内臓を取って、サンパウロに空輸しました。



※たった一枚残っていた写真。

ほかの写真は人に貸したら、返って来なかった。

②工場でのストライキ

工場にいた時に、ストライキがありました。オーディオやテレビや乾電池などを作る工場でした。組合は会社にはなく、地域に金属労連が組織されていました。賃上げや待遇改善を求めてきたものだったと思います。その頃、会社の単身赴任の日本人出向者は、工場のそばの町にあるひとつの大きなアパート（食事付き）で暮らしていて、そこが対策本部になりました。（ちなみに私は研修生だったので、別のアパート）ちょうど社長は日本に出張中で留守だったので、副社長を先頭に毎晩、対策会議が開かれました。味方は日本人幹部とブラジル人の係長以上で、車で出勤した時は、朝から大勢の労働者に取り囲われました。工場には金型があり、それを運び出さないといけなくなり、金型を車に隠して、ゆっくり門の外に出ると、また大勢の人に取り

ブラジルの思い出話①

学 30 回 塚島 公明

り囲まれます。みんな何かを叫んでいました。工場の敷地内に見張りで立ったことがあります。冬だったので、ジャンパーを着て、しばらく立っていました。そばにいたブラジル人の課長に「もし塀を乗り越えて入ってきたらどうするんですか？」と聞いたら、「その時は逃げましょう。」と言われました。誰かが立っていないと、工場の敷地に入ってくる可能性があったためです。ストライキは一週間くらいで終わり、扇動した労働者は、みんな鹹首（クビ）になりました。

③近所のバール

ブラジルにはバールという、飲み屋とコンビニが一緒になったような店があり、ドアもなく、オープンで道路に面しています。軽食も作ってくれます。一度乾電池の市場調査で回ったことがあります。早朝から深夜まで開いており、ポルトガル語を勉強するのにちょうど良いと思って、毎晩、通いました。ただ来ている客にはまず富裕層はおらず、上半身裸の人もけっこういました。使っている言葉もいわゆるスラング（ポルトガル語ではジーリャ）が多く、したがって、私の知っている言葉は、あまりきれいではないと思います。大体は気のいい人たちが多く、特に日本人だからと特別視することもなく、かえって面白がって、いろいろ教えてくれました。



※良く通った近所のバール

④インフレなど

私がブラジルにいた 1985 年頃、ブラジルのインフレ率は年間で 210% くらいでした。公衆電話の切り替えが間に合わず、フィシャという電話専用のコインを売っており、その値段で調整していました。ある日突然、バスの運賃が 2 倍になったり、タクシーもメーターの切り替えが追い付かないので、手元にある換算表を見ながら請求していました。私の給料は日本からニューヨーク経由でドルで送金されてくるので、ブラジルの銀行から連絡があると、数日以内に受け取りのサインをしに行く必要があり、サインをした瞬間にドルからクルゼイロ（当時）に切り替わって口座に入金されました。クルゼイロの価値はどんどん下がるので、帰りに旅行会社に寄り、闇ドルを買って、スーツケースに隠しておいたことを覚えています。

⑤最後に

ブラジルで暮らした経験は、その後の会社生活で大いに参考になりました。そのベースは学生時代に培われた生きるチカラと、経済ワンゲルで鍛えてもらった逆境や危機を面白がる強さだと思っています。今でも感謝しています。

第 64 回日本寮歌祭に参加して①

学 31 回 北浦 弘徳

「おお 白蛇はおどり オー！～」 「暁星淡く瞬きて 金鶏夢を破るとき♪～」
 国広東京支部長 (学 29) のもと田中応援団長 (学 30・応援団創設者) の巻頭言で始まり、
 高商歌「暁星淡く」を声高らかに歌い上げました。参加 60 校の中で、旧制四高 (金沢大
 学) に次ぐ 24 名の大所帯で参加、青春に戻った有志の歌声は、檀上から響き渡り会場を
 ひとつにしました。西海の覇者ここにあり !!

2024 年 11 月 24 日 (日) 都内ホテル会場にて日本寮歌祭が開催されました。
 伝統ある寮歌を伝える祭典として、1961 年から開催され、本年で 64 回を数えるそうです。
 前回初めて参加してバンカラでお祭りのような雰囲気心地よくて、今年も参加した次第
 です。まるで学生時代の片淵体育館でのイベントのように楽しませて頂きました。また「北
 浦～」と懐かしそうに声を掛けられて、やっと分った先輩もいて、卒業して 40 数年の歳
 月を感じた瞬間でした。暖かく懇談頂きました先輩・後輩の皆様に感謝しております。人
 生の折々で長崎大学経済学部 OB との出会いがあり強い絆を感じており、この繋がりを終
 生大事にしたいと思います。

私は学生時代ラグビー部に所属していて、片淵グラウンドでひたすらラグビーボールを
 追い掛ける日々の 4 年間でした。鍛えたのは体か酒か分かりませんが、その後の糧とな
 る得難い経験をしました。昭和 58 年卒業 (学 31)、時代の流れでバブルの華やかな時代
 や大講義室で学んだデフレスパイラルも経験し、山あり谷ありでしたが、赴任地で暖かい
 人情に触れて人生を何倍にも楽ませて頂いたと振り返っています。

現在はシニア勤務、5 年前に青梅に移り住んで、青梅マラソンにもチャレンジ、奥多摩
 や山梨方面にも出掛けて、シニアライフをゆっくり楽しんでいます。

ちなみに、来る春のお勧めは、各駅停車の日帰り旅行、中央線・勝沼ぶどう郷駅の花見
 です。甲府盆地から南アルプスを見渡せる高台にあり、約 1000 本の桜が咲いて見事な風
 景が広がります。徒歩で行ける“ぶどうの丘”では百数十銘柄のワインが試飲 (有料) 出
 来ます。酒好きにとっては、まさに天国です。

思い起こせば、高商歌「暁星淡く」は、新入生歓迎会や卒業イベントで歌われていまし
 た。学年の違う先輩や後輩と交流できる貴重な機会となっていました。新入生歓迎会では、
 先輩方から勧誘を受けて入部を決めた方が殆どではないでしょうか。サークル幹事会とし

第 64 回日本寮歌祭に参加して②

学 31 回 北浦 弘徳

て運営した時に、借りた備品が酒浸しになって学生係の方にご指導を受けたのは苦い思い出です。こんな経験も社会人となって役に立ち、妙に感心されました。“学んだことを全て忘れてしまった時に、残っているものが教育です”とも言われますが、この例えはちょっと違ったようです。

高商歌の一節「文化を西の国人が此処の海(みなと)に運びたる光栄ある瓊の浦曲かな♪」いつも歌っている時に、出島の沖から南蛮船が寄せて来るような異国情緒漂う情景が目につかびます。当時の教養課程の先生曰く、「私は鍋島家の家系だが、江戸時代の殿様は、参勤交代で江戸に行くよりも長崎に行くのが楽しみだった。」と語られていました。あの幕末維新は、殿様の舶来品好きから起こったものでしょうか。



もしも歴史が動かなかったら、母校は平戸に出来ていたかもしれない？
郷土史研究会で知った受け売りで、諸説ありますので間違いはご容赦ください。
15 世紀から始まったヨーロッパの大航海時代は日本にも達して南蛮貿易が始まったとい
います。松浦藩がキリスト教を許したことから平戸にオランダ商館が設置されたとのこと。
同時代に平戸では、明国と台湾の英雄・鄭成功が日本人の母から生まれています。長崎出
身の海洋小説家、白石一郎氏の「怒涛のごとく」で生い立ちが描かれ、300 隻の大船団

第 64 回日本寮歌祭に参加して③

学 31 回 北浦 弘徳

で明国を守って、台湾をオランダから独立させたのですからスケールが大き過ぎます。その時歴史は動いた?! 平戸の貿易は禁止されました。発端はキリスト教の禁教ともポルトガル人と日本商人との争いとも言われています。

その後は大村藩の横瀬浦 (佐世保湾入り口付近) に港が移りましたが内紛となり、ついに長崎港が開かれました。細長い岬の地形から長崎鼻と呼ばれ、県庁跡地までが半島だったようです。その後、その先端に出島が作られました。ちなみに浜ん町はその名の通り浜辺。天然の良港ここにあり、その後の繁栄は周知の通り、もしも歴史が動かなかつたらと考えますが、やはり母校は長崎以外には想像できません。

日本寮歌祭の会場に戻ります。なんと壇上でラッパが鳴り響いています。陸軍士官学校 (東京)OB が登場しサプライズ! パフォーマンスは絶大でした。

「われは湖 (うみ) の子、さすらいの~♪」旧制三高ボート部「琵琶湖周航の歌」です。恒例の陸ボート! 全淑女が壇上に集まり、加藤登紀子のような麗らかな歌唱、檀下で男性陣が腰を降ろし、両手を前の肩にかけて前後に動いています。酔って目が霞んだのか元気な学生諸君がボートを漕いでいるように見えました。私は不覚にも直ぐに腰が固まって、ご迷惑をお掛けしました。陸ボートで本当に良かったです。

これに懲りずに次回も参加したいと思います。ありがとうございました。



長大経済バスケット部活動報告①

学 35 回 堀田 毅

旧制長崎高商籠球部の流れを汲む長崎大学経済学部バスケットボール部が、コロナ禍の影響で部員数ゼロとなり、いったん廃部となったのが2022年3月末。OB一同「これも時代の流れか」と切ない想いで現実を受け止めていたところに「新一年生がバスケの同好会を立ち上げたらしい！」との朗報が飛び込んで来たのが2022年秋。手続き上は廃部→新規創部という流れになりましたが、経済バスケット部は現在も元気に活動中です。



この復活劇はいろいろな幸運にも恵まれました。ちょうどこのころ、世界で通用す

る八村塁選手に注目が集まり、日本でのバスケ人気が再燃し始めていたこと。バスケOB会＝長籠会の会長である熊先輩が、非常勤講師として長大経済に出入りしていたため、いち早く情報をキャッチできたこと。そしてなによりも「ないなら作ろう！」とすぐに行動を起こしてくれるような逸材＝高岡君ほか数名の仲間たちが新一年生として入ってきてくれたことなどなど。加えて、高岡君が長籠会からのアプローチに抵抗なく応じてくれて、早い段階で話をする事ができたのも大きな幸運のひとつです。やれ個人情報保護だの、パワハラだの、なにかとやりづらい昨今。キーマンにアポが取れない瞬間に手詰まりになって頭を抱える、なんてことはありませんか？皆さま。とにかかくにも我々はついていました♪

さて、バスケット部の活動報告ですが、毎年15名前後の部員数をキープできていて、週1～2回、経済学部の体育館に集まってバスケしているとのこと。じきに最上級生は引退、卒業となるため、そのまえに交流を深めたいと思い、2024年の4月に私が長崎に帰った際、現役、並びに長崎在住のOBOG数名に集まっていただき「あっぱれや」にて情報交換会を開催しました。昔と違って「とりあえず飲むぞ」が通用しないので、落ち着いて対話する場を設けるのにも一苦労です。いろいろ状況をヒアリングしたところ、「対外試合をするチャンスがないためユニフォームもなく、紅白戦用のビブスしか持っていない」とのこと。そこで、ユニフォーム制作に必要な見積金額の寄付応募をOBに呼び掛けたところ、あっという間に目標到達。すぐに送金するとともに現地ではデザイン～制作に着手→7月に完成。いつでも対外試合できる戦闘態勢が整いました。あとは相手探し。

ここで、長崎にて現役バスケット部の面倒を見てくれている学36回卒の岡和寿氏のご紹介。岡さんは御年60歳（還暦）ですが、驚くなかれ、いまだ現役バリバリのバスケットプレーヤー。地元のバスケットリーグや大会などに詳しいので、諸々の段取り・橋渡しをお願いしています。ユニフォームも岡さんルートで制作しました。さて、その岡さんの助力もあり、2024年7月21日にフープリーグの親善試合に出場。結果は残念ながら敗戦でしたが、新しいユニフォームで無事、チームデビューを果たしました。創部メンバーがいるうちに対外試合を組めてよか

長大経済バスケ部活動報告②

学35回 堀田 毅

った！！その後、正式にフープリーグに登録し、11月10日にはこのフープリーグにて初勝利を挙げたそうです。

今後がますます楽しみです。今年は創部メンバーである最上級生が4年になります。世代交代、新メンバーの募集、大会への出場、対学生との試合 etc. 現役の皆様には、課題と目標を明確にし、楽しみながらも伝統ある経済バスケ部の誇りをもって、次の世代にタスキをつないでほしい、そう願います。長籠会としてもきっちりバックアップしてまいる所存です。



西陵ラグー OB 会関東支部の活動について①

学 35 回 林田 圭史

長崎大学経済学部ラグビー部の OB 会（西陵ラグー OB 会と称します）関東支部の 2024 年度の活動についてご紹介いたします。

私たちの経済学部ラグビー部は部員不足の波にのみ込まれ、残念ながら数年前に長崎大学全学ラグビー部に吸収されてしまいました。OB 会のメンバーも高齢化が徐々に進行しつつありますが、片淵のグラウンドで情熱を傾けた学生時代の気持ちをそのままに強い結束を保っております。

西陵ラグー OB 会関東支部では、長崎大学全学ラグビー部の現役学生や若手 OB との連携を深めることで新たな流れを作り出すべく活動しております。主要な活動内容は以下のとおりです。

- ①関東支部総会の開催
- ②八大学ラグビー OB 会（※）による OB 戦への参加
- ③八大学ラグビー OB 会が主催する講演会への参加

※八大学ラグビー OB 会とは、1989 年に発足した北海道大学・小樽商科大学・帯広畜産大学・東北大学・東京海洋大学・名古屋大学・九州大学・長崎大学の全国 8 つの国立大学ラグビー部の各 OB 会により運営されている組織で、西陵ラグー OB 会は 1998 年より加わりました。

①関東支部総会

- ・2024 年 4 月 20 日（土）に池袋の緑丘会館（小樽商科大学 OB 会の施設）にて開催、27 名が参加し、前年を上回った（2023 年は 24 名）。
- ・学 29 回卒 国広支部長による開会挨拶に始まり「2023 年度活動報告」「役員改選」「会計・監査報告」「2024 年度の活動報告」について決議しました。
- ・OB 会では全国の OB を対象とするグループ LINE を立ち上げており、総会についてお知らせしました。
- ・大分在住の学 22 回卒 金崎先輩にゲストとして遠方よりご参加いただき大変嬉しく思いました。金崎先輩は「私のラグビー年譜」と題する資料をご用意され、ラグビーに永年ご尽力された概略をご披露していただきました。経済学部でラグビーと出会い、地元大分県で就職、30 代半ばでラグビーを再開、ラグビースクールのコーチに就任、大分県ラグビー協会の事務局長～理事長を経て、大分県ラグビー協会のトップである協会長を歴任されました。2019 年に日本で開催されたラグビーワールドカップでは大分県での試合誘致実現に導かれました。西陵ラグーの先輩が日本のラグビー界に貢献されていることを知り感銘を受けました。
- ・関東支部の活動が衰退することのないように連絡網を充実させること、各イベントに 1 人でも多くの OB が参加するように働きかけること等を呼び掛けました。
- ・長崎大学全学ラグビー部へ直接アプローチを行い、2023 年の八大学 OB 戦には現役部員 4 人に参加いただき、2024 年も引き続き現役部員の招待を行うことも決議されました。
- ・総会に続いて懇親会を開催。参加者全員による自己紹介・近況報告のスピーチでは現役当時のエピソードや昔話に大変な盛り上がりようでした。最後は代々受け継がれてきた伝統の第一部歌で締めくくりました。

西陵ラグー OB 会関東支部の活動について②

学 35 回 林田 圭史



(総会出席者 27 名：敬称略)

写真前列左から 学 35 回卒：白居のぞみ (旧姓柴田)、学 18 回卒：伊藤 正、学 22 回卒：金崎英明、学 14 回卒：後藤純郎、学 15 回卒：足立鉄生、学 15 回卒：佐々木和行

2 列目左から 学 30 回卒：大賀雅徳、学 18 回卒：吉田一久、学 19 回卒：近藤善行、学 22 回卒：田川 恵一、学 23 回卒：河野尚久、学 29 回卒：中川和彦、学 29 回卒：国広昭彦、学 34 回卒：河野和成、学 36 回卒：石丸龍彦、学 19 回卒：野口泰博、学 21 回卒：平山 修

最後列左から 学 34 回卒：赤木 浩一、学 31 回卒：井上勝康、学 32 回卒：大森謙太、学 30 回卒：名尾和昭、学 32 回卒：中村博之、学 38 回卒：佐々木 正章、31 回卒：岸川 泉、学 35 回卒：小淵 宏、学 35 回卒：林田圭史、

(撮影時不在 学 31 回卒：北浦弘徳)

②八大学ラグビー OB 会による OB 戦

- ・ 1989 年の第 1 回開催以降、2020 年～2022 年のコロナ禍の 3 年間を除いて毎年開催されており今年で 33 回目を迎えました。(長崎大学は 1998 年より参加)
- ・ 昨年 2023 年に 4 年振りに再開しました。
- ・ 今年は 6 月 8 日 (土) に 調布市の AGF フィールドにて開催。長崎大学からはプレーヤーとしては OB4 名 (学 31 回卒 井上勝康さん・学 32 回卒 杉浦美德さん・学 38 回卒 佐々木正章さん・学 66 回卒 下川賢人さん)、現役学生 3 名 (歯学部 3 年：唐澤 諒さん・水産学部 3 年：佐々木泰大さん、環境科学部 3 年：大谷勇斗さん) が出場。OB13 名が応援で参加しました。
- ・ 各大学ともに単独チームとして 15 人以上を確保することが困難となっており、年齢別に Over60、Over40、Under40 の混成チームを編成して対戦しました。ホイッスルが鳴ると血が騒ぐのか年齢に関係なく闘志を剥き出しにした激しいプレーが展開され観衆を沸かせました。
- ・ 懇親会では各大学の校歌・部歌等が披露され、我々は長崎高等商業学校校歌「暁星淡く瞬きて～」を熱唱しました。

西陵ラグー OB 会関東支部の活動について③

学 35 回 林田 圭史



(八大学 OB 戦出席者 OB17 名、現役学生 3 名：敬称略)

前列左から 学 15 回卒：佐々木和行、環境科学部 3 年：大谷勇斗、歯学部 3 年：唐澤 諒、水産学部 3 年：佐々木泰大、学 32 回卒：杉浦美德

後列ひだりから 学 29 回卒：国広昭彦、学 34 回卒：河野和成、学 35 回卒：小淵 宏、学 35 回卒：林田圭史、学 18 回卒：伊藤 正、学 31 回卒：井上勝康、学 31 回卒：岸川 泉、学 34 回卒：赤木浩一、学 32 回卒：大森謙太、学 66 回卒：下川賢人

(撮影時不在 学 19 回卒：松原広輝、学 32 回卒：中村博之、学 35 回卒：白居のぞみ (旧姓柴田)、学 38 回卒：佐々木 正章、学 66 回卒：溝上泰貴)



(学 31 回卒：井上勝康 この後見事な TRY を決めました)

西陵ラグビー OB 会関東支部の活動について④

学 35 回 林田 圭史

③八大学ラグビー OB 会主催講演会

- ・12月19日(木)に品川区武蔵小山の小山台会館にて開催。

- ・八大学講演会出席者9名

学 15 回卒：佐々木和行、学 29 回卒：国広 昭彦、学 30 回卒：大賀雅徳、

学 31 回卒：北浦弘徳、学 31 回卒：井上勝康、学 31 回卒：岸川 泉、

学 32 回卒：大森謙太、学 35 回卒：林田圭史、学 36 回卒：中村 勲

- ・講師はラグビー 15 人制男子日本代表チームディレクターの永友洋司氏。

《永友洋司氏の略歴》

1971年3月生まれ53歳、現役時のポジション：スクラムハーフ、日本代表キャップ数8

宮崎県出身：都城高→明治大学→サントリー→サントリーサンゴリアス監督(2003年～2006年)→キヤノンイーグルス監督(2012年～2017年)、15人制日本代表強化部長(2017年)

→日本代表チームディレクター(2024年～)

《講演内容》

- ・演題：「2024年ジャパン活動の総括」

- ・2019年(日本大会：準々決勝敗退)2023年(フランス大会：予選リーグ敗退)のワールドカップを率いたジェイミー・ジョセフHC(ヘッドコーチ)が2023年に退任し、エディ・ジョーンズ氏が2度目のHCに就任した。

- ・現在日本代表は2027年ワールドカップオーストラリア大会を目指してチームの若返りに着手しているが今年の日本代表の低迷している。2024年の戦績は4勝7敗。格上のチームには勝てていない。

- ・「超速ラグビー」を掲げているが発展途上であり、成績不振の1つの要因は日本代表の世界ランクが上がりTier1(最強の10ヶ国)との対戦が多くなったこともあるが、選手が育っていないのも事実である。

- ・課題は「フィジカル面」「戦術面」「セットピース(スクラムやラインアウト)」にある。世界のトップに超速ラグビーが通用するのは20分間程度、以降はフィジカルの差が出る。

- ・2027年2031年2035年のワールドカップに向けた強化をスタートさせている。初キャップ(日本代表)の選手を増やすこともその一環である。2025年は20人を見込んでいる。

- ・国内リーグでの底上げも重要と考える。しかしリーグワンでの日本人選手のプレー率は53%に過ぎない。特にロック(身長2メートルが当たり前のポジション)で安定して活躍している日本人選手1～2人しかいないのが実情である。

- ・コーチも育っていない。リーグワンのディビジョン1における日本人ヘッドコーチは12チーム中3人、ディビジョン2は8チーム中7人、ディビジョン3は6チーム中3人と少ない。

- ・エリートユース(若手有望株)育成システムについては、高校生・大学生・社会人の各世代別日本代表の試合数を増やす。特に大学生の育成を重視している。

- ・指導者フィードバック制度を導入している。代表チームの外国人コーチについても、会社組織の評価制度のように、評価項目を設け、その結果をフィードバックし、指導者

西陵ラグー OB 会関東支部の活動について⑤

学 35 回 林田 圭史

と協会の考え方のベクトルを合わせ、評価の透明性も確保している。

・2025 年以降もエディ・ジョーンズ体制が継続予定

【エディ・ジョーンズが重視しているもの】

・「コミュニケーション」＝積極的な姿勢と交流

・「準備が全て」＝勝てないのは負ける準備をしているから

・「リーダーシップ」＝リーダーに求めるものは個人的な信頼性・正直さ・誠実さ・プレッシャーやストレスに対処する能力。キャプテンが誰かでチームは変わる。

・「学ぶ姿勢」＝チャンスを常に探す姿勢

・2031 年ワールドカップはベスト 4 が目標。2035 年か 2039 年のワールドカップは再び日本に誘致する。

《『前へ』の指導で有名な明治大学の故・北島忠治監督とのエピソード》

・チョロチョロ動くのが特徴であった永友氏は入学当初評価されていなかった。北島監督からは「まずはぶつかってみる、ぶつかることで初めて気がつくことがある」と言われた。

・「言葉や暴力で人は一時的に付いてくるかもしれないがそれではダメ。人を傷つけることをしてはいけない。人間性で引っ張れ。」と教えられた。講演の内容は全体を通してラグビーに限ったことではなく人として社会人として必要なことを教えていただいたと感じました。大変有益で貴重な講演でした。チームディレクターである永友氏が築いていく今後の日本代表がワールドカップベスト 4 の目標を達成するように応援していきたいと思います。



※長崎大学経済学部と九州大学が同じテーブルとなり講師の永友洋司氏と記念撮影

前列左から学 29 回卒：国広昭彦、学 15 回卒：佐々木和行、元日本代表：永友洋司氏、前列右端が学 30 回卒：大賀雅徳

後列左から学 36 回卒：中村 勲、学 35 回卒：林田圭史、学 31 回卒：岸川 泉、学 31 回卒：北浦弘徳、学 32 回卒：大森謙太、後列右端が学 31 回卒：井上勝康

西陵ラグー OB 会関東支部の活動について⑥

学 35 回 林田 圭史

④その他

西陵ラグー OB 会関東支部のメンバーは瓊林会のイベントにも積極的に参加しています。東京支部の総会や日本寮歌祭等にも声を掛け合って参加し存在感を発揮しています。

最後に・・・

西陵ラグー OB 会の活動を通して思うことを纏めてみます。

長崎大学ではキャンパス再編が計画されていると聞いております。思い出の詰まった片淵のグラウンドが消滅してしまう可能性があるのかと心配しています。

世代も異なり学生時代にはお会いすることもなかった先輩方でも、ラグビーを愛する者同士、同じ片淵のキャンパスで学び、同じ石ころも転がるグラウンドで汗を流した経験は、世代は違えども相通じて感慨深いものがあります。

我々の経済学部ラグビー部は高商時代の昭和 2 年（1927 年）に創部、同年 12 月 4 日に三菱重工との間で初試合が行われました。これは、長崎県でのラグビー史上初の試合でした。2027 年には創部 100 年を迎えます。前述のとおり経済学部ラグビー部は数年前に全学ラグビー部に吸収される形となりましたが、先輩方が苦勞して繋いでこられた情熱は OB 一人ひとりの心の中に生き続けていると思います。支えてくれた女子マネージャーさんたちにも。

学 35 回卒の私も還暦を迎えました。長年勤めている会社に就職できたことも家族の存在も経済学部のおかげであり、同時にラグビー部のおかげです。会社での仕事が閑職となるにつれてそんな思いが年々強くなっています。大袈裟ですが先輩方がいなかったら全然違った人生になっていたことでしょう。

今後も経済学部並びにラグビー部 OB との繋がりを大切にして、より強固なものにしていくように微力ではありますが尽くしていきたいと考えています。1 人でも多くの OB が瓊林会や西陵ラグー OB 会のイベントに参加していただくことを強く願っています。



長崎マンドリンアンサンブル（NME）第 18 回ファミリーコンサート開催①

学 22 回 岩崎 茂

長崎マンドリンアンサンブル（NME）は長崎大学経済学部マンドリンクラブのOBと長崎市内の4つの女子短大のマンドリンクラブOGを中心に立ち上げられた「長崎マンドリンクラブOB & OG会」の東京支部の位置づけで活動しております。毎年秋に「ファミリーコンサート」を開催しておりますが、今回も公益社団法人瓊林会および瓊林会東京支部のご後援により2024年11月30日に主婦会館プラザエフにて開催いたしました。

当日は天気にも恵まれ、国広瓊林会東京支部長、牧野事務局長をはじめ瓊林会関係の方々やNMEメンバーの家族・友人など多くの方々にご来場いただき、アットホームな雰囲気の中、約2時間の演奏を行いました。

演奏曲は長崎出身のさだまさしの手による「Birthday（NHKテレビ「家族に乾杯」のテーマ曲）」で始まり、クラシック、映画音楽、ポップス、グループサウンズメドレー、日本抒情歌集など様々なジャンルの曲を演奏し、最後はジプシーキングスによりラテンカバーされビールのCMに使われて再注目された「ヴォラーレ」の明るく楽しいナンバーで会場の雰囲気を盛り上げました。そしてアンコール曲は定番の「長崎の鐘」で締めくくりました。

マンドリン合奏はマンドリン（オーケストラにおけるバイオリンに相当）、マンドラ（ビオラに相当）、マンドロンセロ（チェロに相当）、にギターとコントラバスを加えた編成になっています。曲により管楽器や打楽器を加えて演奏することもあり、今回は長崎の夜景を基に葉加瀬太郎が作曲した「長崎夜曲」の演奏に、ツリーチャイム、カホン、タンバリン、トライアングルといった打楽器を加え演奏しました。マンドリンについては「東京瓊林（2023年3月号）」で説明されていますので割愛しますが、時折見かけることがあってもあまり知られていないツリーチャイムとカホンについて少し説明したいと思います。

ツリーチャイムはウインドチャイムやバーチャイムとも呼ばれ、長さ10cm前後の金属棒を半音ずつ横に並べ糸で吊り下げた楽器で、これを手や金属棒で連続音として鳴らすことにより流れ星の効果音などに使われます。

カホンは空洞の箱型の木製楽器で、この箱にまたがり正面の打面を手で叩いて音を出します。正面と裏面で構造が異なり曲調により使い分けられます。簡単な構造ですが叩く強さだけでなく、叩く場所により微妙な音の違いがあります。コンパクトで電源が要らず、ドラムセットのようなサウンドを得られることもあり、利用場面が増えています。



長崎マンドリンアンサンブル（NME）第 18 回ファミリーコンサート開催②
学 22 回 岩崎 茂

今回ご来場いただいた何名かの方に感想をお聞きしたところ、いろいろな曲を楽しむことができた、マンドリンの音色が柔らかくて心地良かった、グループサウンズメドレーや日本抒情歌集や長崎の鐘など会場からは自然発生的に歌声も起きて演奏者とお客様が一体となった楽しいコンサートだった、などの声をいただくことができました。

小規模編成の楽団ですが、今後もお客様の心に響く演奏を心掛けるべく練習に励みたいと思っております。



囲碁海外遠征（４）ヨーロッパ編①

学 12 回 高本 正

前号で囲碁海外遠征（３）アメリカ編を寄稿した、第４回の今回はヨーロッパ編である。ウクライナでの囲碁交流と ２．ヨーロッパ碁コンgresについて記す。

私は 1964 年最初の東京オリンピックの年に日本アイ・ビー・エムに入社した。日本アイ・ビー・エムを退職するときは長野オリンピックを担当していた。オリンピックの情報システムは競技結果を収集・配信するリザルトシステム、INFO システムと呼んでいたオリンピック情報提供システムと共に大会運営に欠かせない認証システムを柱とする、大会運営システムであり、私は長野市に出向し、大会運営システムの班長を務めた。初めての単身赴任だった。アイ・ビー・エム社は IOC との間で情報システムスポンサーとなった。

多くの仲間と共に単身赴任生活をおう歌していたが、ある時娘がスキーの途中に立ち寄り、家内が母の世話で体調を崩していると教えられすぐさま帰京した。母は認知症で家内は介護に手を焼いていた。私はオリンピックもアイ・ビー・エムも辞めて家内をサポートした。失業保険で暮らしていた。

その後友人と二人でベンチャー企業を立ち上げ、私が IT と電力に詳しい人材として ODA の仕事でウクライナ電力支援の誘いがあり、プロジェクトに入った。プロジェクトリーダーはコンサルタント会社で私はシステムアナリストという役職で参加した。私の補佐に IT 企業の中堅社員がついてくれた。

今から約 30 年前のことで、記憶も定かではないが、ウクライナに 6 回の出張で延べ 100 日滞在した。ウクライナの首都キエフは日本からの直行便はなく、フランクフルトまたはウィーンにストップオーバーしてキエフのボリスポリ空港に入る。ウクライナは穀倉地帯で小麦畑がつつく平原の国である。北から黒海に大河ドニエプル河が流れる。黒海の西岸にクリミア半島がある。そこにはセバストポリという不凍港があり、ロシアとの間で紛争の種となっている。キエフの北 200 キロにはチェルノブイリ原子力発電所がある。キエフではキノコは食べない方がいいらしい。ドニエプル川の河畔に美しい教会や修道院がある。

ウクライナ電力本社近くにプロジェクトオフィスを構え、キエフ第 2 といわれるルースホテルに滞在した。土曜日曜は休みなので、囲碁交流ができないか調べてもらおうと青少年宮で子供たちに囲碁指導をしていることがわかり、早速行ってみた。

二人の指導者ユーリ・プリューセシさんとビクター・ティシェンコさんを紹介された。小学生くらいの子供が数人教わっていた。ユーリさんは囲碁指導を職業としており、英語も堪能で囲碁の棋力も高かった。ティシェンコさんは自分で作った将棋盤を抱えており、二人とも親切な人であった。帰りはいつもルースホテルまで送ってくれた。2 回目の出張の折、二人に携帯用磁石碁盤を持参した、また、出張の度に碁盤のセットを持参して喜ばれた、ホテルまで送ってもらったお礼にコーヒーでもと誘ったが、一度もつきあってくれなかった。

現地ウクライナ新聞のインタビューも受けた。私が持参していた扇子について揮毫されている「深奥幽玄」の意味を質問された。囲碁はとても奥深いゲームで変化が多く非常に面白い日本の文化であると返答したが、碁を知らない人には分からないでしょうとも付け加えた。

囲碁海外遠征（4）ヨーロッパ編②

学12回 高本 正

ユーリさんとは非常に親しくなり、プロジェクトの後もメールで連絡しあい、日本囲碁仲間を誘ってウクライナを訪問し、キエフをユーリさんに案内してもらったりした。ユーリさんは世界アマチュアペア碁大会に参加して来日したこともある。私の家に1泊して京都も新幹線で行ってもらった、帰国にあたっては秋葉原で大きなパソコンのディスプレイを買い、背負って成田空港まで運んだ。バドミントンのシューズも熱心に探していた。

ヨーロッパでは毎年夏ヨーロッパ碁コンGRESSが開催される。囲碁愛好者はバカンスを兼ねて碁コンGRESSに参加するのだが、私たちも仲間を募って3回参加した。はじめはフィンランドの第2の都市であるタンペレ、2回目はチェコのプラハ郊外リベレッツ、3回目はイタリアの斜塔で知られるピサ。

ヨーロッパ碁コンGRESSは期間が2週間、私たちは1週間碁コンGRESSに参加してあとの1週間は旅行に充てる。タンペレの時はウィーン観光の後、鉄道と航空便、深夜バスでキエフ、サンクトペテルブルグを観光しながらタンペレに入った。ウィーンではシェーンブルン宮殿が最も印象的だった。観光の後ウィーンからキエフまで鉄道を利用した。ポーランド国境で列車の下駄の履き替えを経験した。すなわち、ポーランドまでは狭軌、ウクライナは広軌で列車はお客を乗せたまま車輪の幅を変えなければならない、深夜に数時間鉄を打つ音が車内に響いた。

キエフ駅ではユーリさんが友達と共に車で迎えに来てくれていた。出発前ユーリさんは宿泊についてプライベートアコモデーションを希望するかと聞いてきていたので、私は立派なホテルでなく別荘か民宿だろうと思いOKと返事していた。私夫婦ともう一人はユーリさんのアパート、他の5人は安宿で、水が出ない宿だったようで2日目から普通のホテルを取ってもらった。

サンクトペテルブルグではエルミタージュ美術館を半日くらい見た後、エカテリーナ宮殿を観光した。エカテリーナはロマノフ王朝の女帝で部屋中の壁に琥珀を張り巡らした琥珀の間を見た。日本人の庶民感覚からは想像できない贅沢に驚いた。サンクトペテルブルグからタンペレまでは深夜バス。ロシア人の他は私たち日本人8人で理解出来ないロシア語でやかましいバス旅であった。

タンペレはフィンランドの首都ヘルシンキの北200キロの多くの湖がある静かな街であった。治安もよく碁をしない家内はショッピングを楽しんだようである。ヨーロッパ碁コンGRESSにはヨーロッパの国々から囲碁愛好家が数百人参加しており、盛大な碁のイベントである。メイントーナメントという人気の大会は1日1局で勝敗に応じてレーティングが上下するので緊張感がある。

私は高段クラスの中くらいの位置であった。タンペレでは2勝4敗と振るわなかった。2回目のヨーロッパ碁コンGRESSはチェコのリベレッツという町、プラハ大聖堂やカレル橋を観光し、モーツアルトというレストランで室内楽を聴きながら食事して楽しんだ後バスでリベレッツへ向かった。リベレッツには小高い岡があり、頂上にはテレビ塔がある。頂上からヨーロッパ平原を見下ろした。

囲碁海外遠征（４）ヨーロッパ編③

学 12 回 高本 正

3 回目はイタリア斜塔で有名なピサ、この時はスイスチューリッヒにはいり、スイスアルプスを観光した。グリンデルワルドの山小屋に宿をとり、ユングフラウ、メンヒ、アイガーといったヨーロッパアルプス最高峰を見渡すユングフラウヨッホに山岳鉄道で行った。秀麗な雪山三山であった。

マッターホルンも観たいとツエルマットへこれまた山岳鉄道。マッターホルンの岩のどがった姿が今でも忘れられない。ツエルマットではタクシーがすべて電気自動車だそうである。鉄道でスイスを南へイタリアに入る。最初の滞在地はベローナ、オペラアイダを鑑賞した。ベローナの後フィレンツェに数日滞在、ぶどう畑に点在する古い教会を見て回った。フィレンツェのドームは人気があり、観光客の長い列に並んだ。フィレンツェ観光のあとベネチアにはいる。ゴンドラには乗らず、船で観光した。ローマも私は初訪問で、1泊してバチカン美術館、コロッセウムを観光した。ローマから鉄道でピサに向かう。

ピサの斜塔は確かに10度くらい傾いているのに、塔の中も入れる。倒壊予防策はどんなものだろうか？ピサでのヨーロッパ碁コンGRESの会場が海岸の洞窟の中だった。海風が気持ちよくこんな珍しいところで碁が打てて幸いであった。メイントーナメントの成績は3勝3敗であった。同行した同級生の武藤君はずいぶん勝って10番テーブルまで上がった。参加者のなかでトップ10に入ったことになる。3回のヨーロッパ碁コンGRES出場を通してヨーロッパ各地を訪問できてよかった。家内もヨーロッパ旅行を大いに楽しんだはずである。



俳句同好会より

学12 稲山 清紀

稲山 清紀 (学12 四街道市)

山眠る才惜しまれつ君逝けり

海鳴りや遠富士仰ぐ黄水仙

喧噪の銀座通りや返り花

野村方昭 (学12 さいたま市)

寒紅をさしつ昂る楽屋裏

冬ざれや瓦礫に埋もる車椅子

百畳へ響く説法息白し

岩下 芳和 (学12 八王子市)

水琴窟松陰墓所の冬の音

眼つぶれば大海原の柚子湯かな

真向かひに妻ゐる気配七草粥

山内裕介 (学16 豊島区)

柚の道踏み鳴らしゆく朴落ち葉

断捨離を言ひつしたたむ初日記

古桜共に老い来て染井の里

高本 正 (学12 品川区)

柿のこる島の教会踏み絵板

秋潮まぐるはぐくむ網太し

白波のよする断崖椿さく

俳句同好会会員募集中

二ヶ月に一回・会費無料

長崎県東京産業支援センターにて開催

連絡先 瓊林会東京支部

(03 6240 0532)



長崎県の産業振興に向けて①

公益財団法人 長崎県産業振興財団
東京企業誘致センター長 板羽 義則

私は令和6年4月に長崎県産業振興財団に派遣となり、長崎県東京事務所内の東京企業誘致センターに着任いたしました。昨年度までは県職員として、主に県産加工品・農水産物のPRを担当する部署に勤務しておりました。

ももとは茨城県出身で、都内の大学卒業後は地元の小売業で働いておりました。その後ご縁があり県に就職し、この春から東京に異動したわけですが、1年弱勤務する中で、首都圏において長崎にゆかりのある方の多さに驚くとともに、皆様のご活躍に私も勇気づけられる思いで日々業務に取り組んでおります。

さて、長崎県産業振興財団についてお話させていただきます。当財団は、長崎県内の中小企業を対象とした支援機関として平成13年に設立されて以来、地域経済の活性化と良質な雇用の場の確保を目指して、財団職員に加えて県、市町や地元地方銀行からの出向者が一体となって活動しており、本部は長崎市の出島交流会館にあります。

事業内容としては「県内企業の取引拡大支援」「県外からの企業誘致の推進」「研究開発・事業化への支援」の3つの柱で施策展開をしており、私ども東京企業誘致センターは、特に東日本エリアの企業を訪問させていただき、長崎県での拠点立地に向けた工場用地やオフィスビル等をご紹介します。その甲斐もあり、今年度は大手プラントエンジニアリング企業や医療用特殊針メーカーなどに進出いただきました。

多くの方とお会いするにあたり、長崎の魅力として私たちがご紹介しているもののうち、本日は3点をご紹介します。

〈1. 優秀な人材〉

長崎県から県外に就職する割合は高く、長崎大学を例にすると令和6年3月卒業生では72.6%です。都会に出て活躍したいという若者の思いがあるのは素晴らしいことですが、学んだことを活かして働ける企業が少ないために転出する方も多くいらっしゃいます。強みである工業系の人材の豊富さに加えて、近年はデジタル化社会に対応した情報系学部が長崎大学や県立大学に設置され、優秀な学生が輩出されていますので、その方々が働きたいと思うような雇用の場の確保に努めているところです。

〈2. 少ない自然災害〉

各都道府県庁所在地の比較において、長崎市は今後30年以内の震度6弱以上の地震発生確率は札幌に次いで2番目に低いとの予測もありますので、BCPの観点から、万一の際に本社として機能することができる第2本拠を、複数の保険系企業が長崎に立地されています。

私は県外出身者ですが、地震の少なさは身をもって感じているところであり、首都圏の企業の方でリスク分散を課題として捉えていらっしゃる企業にこの点をご紹介します機会も多々あります。

〈3. 生活・働く環境〉

最近の長崎では大きな変化が起こっています。特に長崎市内は駅周辺を中心に、百年に一度と言われるスケールでの施設整備が進んでおり、しばらく長崎を訪れていない方は驚かれると

長崎県の産業振興に向けて②

公益財団法人 長崎県産業振興財団
東京企業誘致センター長 板羽 義則

思います。長崎駅近くでジャパネット様のグループが運営する「長崎スタジアムシティプロジェクト」は、サッカースタジアムを中心にアリーナ・オフィス・商業施設・ホテルなどの周辺施設を民間主導で開発するプロジェクトで、昨年10月14日に開業し、我々が誘致した企業も早速、入居されました。

我々としては多くの企業を訪問し、長崎県のPRを行っているところですが、まだまだ訪問できていない企業も多く存在します。会員の皆様、又はお知り合いで長崎県内での事業展開をお考えの方や、人材やサプライヤー確保のために長崎の企業等と連携したい方がいらっしゃいましたら、是非ご連絡いただければ幸いです。また、長崎県への移住をお考えの方には、都内有楽町に仕事や住まいに関する相談窓口がありますのでご活用ください。今後ともよろしくお願いたします。

○公益財団法人 長崎県産業振興財団 東京企業誘致センター
東京都千代田区平河町 2-6-3 都道府県会館 14F 長崎県東京事務所内
TEL：03-5212-9182
Mail：onoue.satoshi@joho-nagasaki.or.jp

○ながさき移住サポートセンター 東京窓口
東京都千代田区有楽町 2-10-1 東京交通会館 8階（ふるさと回帰支援センター内）
10時～18時（月曜休館）※祝祭日、8/11～8/17、12/28～1/3を除く。
TEL：080-7735-3852（直通）（月曜日、木曜日を除く）



選ばれるまち SASEBO をめざして①

佐世保市東京事務所 中山 健司

佐世保市東京事務所長の中山と申します。令和4年4月に着任し、まもなく丸3年が経とうとしています。佐世保市東京事務所は、首都圏と佐世保市とをつなぐ重要な窓口として、中央官庁や国会議員事務所等との連絡調整を始め、観光、物産、移住、企業誘致など様々な情報収集や情報発信などシティプロモーションを主な活動としております。

佐世保市は、近年の急激な社会変化の中で、着実な発展を積み重ねていくための新しい取り組みやプロジェクトを進行させており、地域の一層の活性化を目指して活動が活発化しています。以下、現状とこれからのトピックスについてご紹介いたします。

令和6年4月からスタートした第7次佐世保市総合計画（後期基本計画）に基づき、「子育て」「産業」「地域資源」「文化」を4つの柱とする「『選ばれるまち SASEBO』を創るシティブランディング・プロジェクト」として、本市の可能性や魅力を最大限に生かす、未来に向けた取り組みを進めています。

主な取り組みとしては、市立中学校第3学年及び義務教育学校第9学年の給食費の無償化や、第2子以降の保育料の一部無償化、特定不妊治療の支援など、「子育て世代にやさしいまち」を目指した支援の充実を図っています。

また、本市の発展に向けた取り組みの一つとして、佐世保市内では2か所目となる浦頭地区の旅客ターミナル「佐世保クルーズセンター」が供用開始され、6月にクルーズ客船の受け入れをスタートしました。また、クルーズ客船受入時の歓迎イベントなど佐世保港で開催した新たな取り組みが評価され、12月には「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2024」で特別賞を受賞することができました。

文化・スポーツ面では、プロバスケットボールクラブ「長崎ヴェルカ」とマザータウン協定を結んだほか、文化とスポーツ（ダンスとスケートボード）を融合させた「SASEBO ストリートカルチャーフェスティバル」を開催するなど、文化やスポーツで市民の皆さまが楽しめるまちづくりが進みました。

10月には、実現したい夢を持つ若者と、それに共感した市内外の仲間や応援したい大人をつなげるオンラインコミュニティ「サセボクロス SASEBO ⇄ X」の運用を開始し、「日本一、若者の夢を後押しするまち」の実現に向けて取り組みを進めています。特に「サセボクロス SASEBO ⇄ X」は、自分の夢や地域のために活動したい若者が登録するだけでなく、その思いに共感して支える人や市外の佐世保ファンなども登録することができます。様々なプロジェクトを始めることができます。18歳以上であれば誰でも登録ができますので、多くの方々のご登録をよろしくお願いいたします。



選ばれるまち SASEBO をめざして②

佐世保市東京事務所 中山 健司

また、令和7年度においては、大きなイベントも予定されています。本年3月には、九十九島を含む「西海国立公園」が、国立公園に指定されて70周年を迎えます。この節目を記念し、一年を通じて新たな話題やにぎわいを創出してまいります。9月には、全国規模の文化の祭典「ながさきピース文化祭2025」が長崎県で初めて開催され、開会式がアルカス SASEBO で行われる予定です。10月には、国際自転車競技連合（UCI）公認のサイクルロードレース「ツール・九州2025」のクリテリウム（エキシビジョンレース）が本市で開催されます。その他にも、昨年、国の特別史跡に指定された福井洞窟に関するイベントも予定しており、「洞窟遺跡の数日本一のまち」を市内外に発信してまいります。



西海国立公園
九十九島観光公園からの眺望



国指定特別史跡
福井洞窟

このように、令和7年度は佐世保市の発展を形づくる重要な節目を迎えるほか、多くのイベントの開催が予定されています。この追い風をしっかりと市政発展につなげてまいりたいと思いますので、引き続き、皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

長崎市東京事務所より①

長崎市東京事務所 所長 渡辺 清英

瓊林会東京支部の皆様、日頃より長崎市東京事務所の取り組みにご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。また、このたび寄稿の機会を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

私は令和 6 年 4 月に長崎市東京事務所長として着任いたしました。平成 26 年から 2 年間の東京赴任経験があり、今回が 2 度目の東京生活となります。長崎市東京事務所では、関係省庁や国会議員等への要望、観光・物産・移住支援などの情報発信や修学旅行誘致といったシティプロモーションに取り組んでおります。また、長崎市に縁のある方々、そして瓊林会東京支部の皆様のように長崎で学び過ごされた方々とのつながりを深めることも重要な役割です。

私自身も瓊林会の会員であり、平成 19 年から 2 年間、長崎市役所に勤めながら長崎大学大学院経済学研究科で学びました。学部は工学部でしたが、マネジメントを学びたいと思い、昼間は仕事、夜間は大学院という生活に挑戦したのです。大変ではありましたが、実務だけでは身につかない専門知識を教授の指導のもと得られたことは、本当に良い経験でした。また、年代や国籍、職種の異なる社会人の方々と同級生になり、今も続く関係を築けたことは、私の大切な財産となっています。

さて、いま長崎市は「100 年に一度」ともいえる大きな変革期を迎えています。特に中心部では官民一体となった未来への投資が進み、「陸の玄関口」である長崎駅周辺と、「海の玄関口」である松が枝国際観光船ふ頭周辺で大きく姿を変えようとしています。長崎駅周辺にはサミットクラスの国際会議に対応できる MICE 施設「出島メッセ長崎」が開業し、国際的なラグジュアリーホテルである長崎マリオットホテルやヒルトン長崎も相次いでオープンしました。さらに、ジャパネットホールディングスが主体となって整備した「長崎スタジアムシティ」も昨年オープンしており、これまで長崎市では実現が難しかったイベントの開催や新たな魅力の創出に期待が高まっています。

一方、松が枝国際観光船ふ頭では大型クルーズ船を 2 隻同時に受け入れる体制整備が進み、国際的観光都市としての長崎の存在感をさらに高める取り組みが行われています。こうした動きにより、海外からの観光客も増え、長崎の経済に新たな活力をもたらすことが見込まれています。



長崎市東京事務所より②

長崎市東京事務所 所長 渡辺 清英

長崎市はまた、「明治日本の産業革命遺産」と「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」という二つの世界文化遺産をはじめ、多彩な歴史的遺産に恵まれています。夜間観光も大きな魅力で、市内の各所から立体的な街並みの夜景を楽しめ、世界新三大夜景や日本新三大夜景にも選ばれています。さらに食文化も魅力のひとつで、中華街や豊富な海の幸、郷土料理などは多くの方に喜ばれています。

こうした豊かな地域資源を生かしながら、市内外の民間企業との連携やクラウドファンディング型ふるさと納税なども取り入れ、地域の課題解決と持続可能なプロジェクトに取り組んでいるところです。私自身、東京事務所に赴任するまで移住支援業務を担当していましたが、Uターン希望の方々の故郷への思いや、Iターン希望の方々が長崎の自然や文化に憧れる気持ちを直に感じてきました。その思いが実際の移住につながるよう、長崎市ではきめ細かな就職支援や情報発信、東京での移住相談会などを行っています。

これからも長崎市は魅力をさらに磨き、新しい挑戦を続けています。瓊林会の皆様には、ぜひ日々変化するまちの様子を直接見ていただきたいと思います。そして皆様の温かいご支援とご協力こそが、長崎市の未来をより明るく彩る原動力になると信じております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、國廣支部長をはじめ、瓊林会東京支部の皆様のさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。

【プロフィール】

昭和 44 年福岡県出身。平成 5 年に長崎大学工学部機械システム工学科を卒業し、同年長崎市役所に入庁。平成 19 年に社会人入学で長崎大学大学院経済学研究科へ進み、平成 20 年修了。世界遺産推進室長や移住支援室長などを歴任し、令和 6 年 4 月より現職。

大村市より①

大村市企画政策部企画政策課 土本 裕美

大村市のご紹介

本市の歴史は古く、日本初のキリシタン大名・大村純忠は、日本初の公式ヨーロッパ訪問団となる「天正遣欧少年使節」をローマに派遣しました。また、大村藩は幕末勤王派に属し、近代日本の礎を築いた幾多の偉人を輩出してきました。

現在は、世界初の海上空港である長崎空港や、2カ所の高速道路インターチェンジ、令和4年9月には西九州新幹線が開業し、4キロメートル圏内に空港、高速道路インターチェンジ、新幹線駅の高速度交通が集約される高い交通利便性を有するまちとして、発展を続けています。また、「日本さくら名所100選」の地に選出された大村公園では、春は国指定天然記念物であるオオムラザクラをはじめ、約2千本の桜が咲き誇り、多くの観光客でにぎわっています。初夏には、約30万本のハナショウブが見頃を迎え、花のまち大村を彩ります。

大村市の近況について

100年に一度の大きな変革期にあるといわれる長崎県ですが、その新たな歩みは、ここ大村でも始まっています。昨年、本市では、北部九州総体（インターハイ）の開催や、蔵書数で西日本トップクラスを誇るミライ on 図書館の来館者数200万人達成、市立中学校への統一デザインとなるジェンダーフリー制服の導入、市独自のポータルアプリ「おむすび。」やデジタル地域通貨「ゆでぴ」の運用開始、ボートレース大村での、4年連続、売上金額日本一の達成、新大村駅前の整備による新たな「おおむら暮らし」の提案など、様々な出来事がありました。

今後も、福重小学校をはじめとした小中学校の校舎・体育館のリニューアルや、市役所の新庁舎建設、自然共生型アウトドアパーク等の整備を行う野岳湖公園のリニューアル事業、本市有数の観光拠点でもある「大村公園」の魅力向上のための整備事業等、大村市民はもとより、県外の皆様にとっても魅力的な市となるよう、様々な事業を計画しています。

本市が目指す将来像である「～行きたい、働きたい、住みたい～しあわせ実感都市」の実現のため、施策を進めていますので、ぜひ今後もお注目ください。

おわりに

本市の人口は50年以上増加し続けており、令和7年中には、10万人に到達する見込みであり、いよいよ人口10万人都市へ移行し、新たなステージを迎えようとしています。

今後も、自然と共生するまちづくりを進め、教育や福祉、交通インフラの整備を通じて、子どもたちが夢を持ち、成長できるような取り組みを推進していきます。

また、本市では、ふるさとづくり寄附や企業版ふるさと納税の制度を活用し、「大村市の応援団」を募っています。ふるさとづくり寄附では、返礼品として、大村公園にある玖島城の石垣の石1つひとつの、NFT（非代替性トークン）としての所有権や、本市の逸品をご用意しております。長崎空港には、ふるさとづくり寄附が行える自動販売機の設置も行っておりますので、本市の取り組みにご理解をいただき、お力添えを賜れますと幸いです。

長崎に来られた際は、ぜひ大村市にもお立ち寄りいただき、本市の変化を感じてください。皆様のお越しを、心よりお待ちしております。

大村市より②

大村市企画政策部企画政策課 土本 裕美



空港



玖島城



大村湾



ミライon外観



ボートレース大村（ナイター）



ガラスの砂浜



天正遣欧少年使節



新大村駅

敬 弔

「東京瓊林 152 号（2023 年 1 月末現在）」の発行後、
次の方々の訃報に接しました。
謹んでご冥福をお祈りいたします。

卒回	ご芳名	ご逝去日
経専 41 回	中村 和雄	令和 6 年 12 月 23 日
経専 42 回	花田 健次郎	令和 6 年 4 月 24 日
学部 02 回	徳本 雄一郎	令和 6 年 2 月 15 日
学部 03 回	津村 好計	令和 6 年 9 月 24 日
学部 05 回	山川 讓	令和 6 年 6 月 7 日
学部 08 回	桑野 浩一	令和 6 年 6 月 18 日
学部 10 回	藤松 謙治	令和 5 年 6 月 8 日
学部 11 回	三谷 彬明	令和 6 年 8 月 10 日
学部 14 回	甲木 博道	令和 6 年 4 月 4 日
学部 14 回	重藤 和基	逝去日不明
学部 18 回	藤田 直樹	令和 6 年 8 月

令和6年度(2024年)会費納入者一覧(敬称略)

(2024年3月～2025年1月末現在) 308名

会費納入いただきありがとうございました。

卒回	お名前	卒回	お名前	卒回	お名前
学部01	松岡 眞男	学部09	北村 義三	学部13	柴田 清廣
学部02	岩永 寿郎	学部09	木村 耕三	学部13	中村 正克
学部02	柄本 貞丸	学部09	小淵 繁利	学部13	松尾 信孝
学部02	小林 茂男	学部09	佐藤 徹	学部13	彌富 克彦
学部02	竹本 健二	学部09	高瀬 健二	学部13	吉川 優
学部03	浦川 延喜	学部09	田中 明久	学部14	伊東 義人
学部03	島田 辰義	学部09	中村 正晴	学部14	上村 伍朗
学部03	津村 好計	学部09	宮川 弘	学部14	内野 武夫
学部03	永留 光之	学部10	一ノ瀬 義之	学部14	黒山 久章
学部04	倉地 完一	学部10	江口 繁唯	学部14	後藤 純郎
学部04	中西 武重	学部10	岡藤 幸策	学部14	藤村 建夫
学部04	福田 誠一	学部10	梶山 正博	学部14	安田 正秀
学部05	内山 淳見	学部10	許斐 幹彦	学部15	足立 鉄生
学部05	甲木 英光	学部10	貞方 士郎	学部15	川崎 滋
学部05	藤井 美智子	学部10	高嶺 朝映	学部15	河野 正一
学部06	入佐 輝男	学部10	竹崎 勲	学部15	佐々木 和行
学部06	福井 弘志	学部10	原田 信男	学部15	橋本 貞夫
学部06	藤 俊伸	学部10	光永 久之	学部15	平川 文彦
学部06	三根 吏	学部10	宮本 祥行	学部15	堀居 堅
学部06	村上 文夫	学部10	屋敷田 賢作	学部15	榎本 和裕
学部06	毛利 龍猪	学部10	吉村 秀雄	学部16	上野 昭男
学部07	蔵屋 勝敏	学部11	石田 昌吉	学部16	大塚 保
学部07	副島 邦雄	学部11	小林 憲正	学部16	中山 作富
学部07	堤 昇	学部11	徳久 忠正	学部16	藤田 優
学部07	寺田 政輝	学部11	長野 英明	学部16	前田 正昭
学部07	原田 義之	学部11	西尾 智博	学部16	村高 誓司
学部07	横川 等	学部11	松尾 晋	学部16	山内 裕介
学部07	横沢 弘溶	学部11	松尾 重徳	学部17	内田 重樹
学部08	秋山 宏二	学部11	丸本 雄三	学部17	小関 尚英
学部08	萬木 勇	学部11	三谷 彬明	学部17	草野 耕二
学部08	工藤 欽伍	学部12	稲山 清紀	学部17	荘 敏幸
学部08	黒田 勲	学部12	岩下 芳和	学部17	智多 昌憲
学部08	豊田 安鴻	学部12	内野 鐵平	学部17	藤井 吉弘
学部08	長野 寛	学部12	川口 恒夫	学部17	藤田 基
学部08	中村 政治	学部12	岸川 博	学部17	見崎 俊輔
学部08	西山 正昭	学部12	高本 正	学部18	有富 武司
学部08	馬場 日出美	学部12	迫本 正記	学部18	伊藤 正
学部08	浜口 孝昭	学部12	澤部 壽孫	学部18	井原 弘道
学部08	林 英男	学部12	園田 明	学部18	小倉 孝司
学部08	外尾 勉	学部12	高岡 芳徳	学部18	柿田 寛
学部08	松井 有	学部12	永柄 賢次	学部18	川上 久夫
学部08	三浦 康寿	学部12	中川 義文	学部18	重松 義章
学部08	牟田 辰雄	学部12	中島 明	学部18	高橋 道雄
学部08	米良 康二	学部12	野村 方昭	学部18	田中 洋
学部08	毛利 寿男	学部12	平野 勝利	学部18	塚本 徳男
学部08	山口 信明	学部12	藤井 健二	学部18	徳重 克己
学部08	米丸 昭夫	学部12	本松 健治郎	学部18	永田 勇夫
学部09	伊津野 平	学部13	大隈 征次郎	学部18	中野 榮次
学部09	大久保 哲夫	学部13	熊野 東男	学部18	橋口 孜
学部09	小川 渚	学部13	佐々木 浩	学部18	溝田 信太郎

令和6年度(2024年)会費納入者一覧(敬称略)

(2024年3月～2025年1月末現在) 308名

会費納入いただきありがとうございました。

卒回	お名前	卒回	お名前	卒回	お名前
学部 18	森部 良広	学部 23	田代 雅孝	学部 29	牧野 陽一郎
学部 18	山野 澄雄	学部 23	松尾 肇	学部 29	松本 正信
学部 18	吉田 一久	学部 23	満崎 周夫	学部 29	村上 真由美
学部 18	萬屋 鴻嗣	学部 23	渡辺 一博	学部 29	森 厚憲
学部 19	井上 健一郎	学部 23	渡部 良次	学部 29	吉開 孝人
学部 19	江川 次雄	学部 24	井上 隆	学部 29	渡邊 俊介
学部 19	江崎 秀昭	学部 24	江上 寛	学部 30	大賀 雅徳
学部 19	近藤 善行	学部 24	恵崎 隆彦	学部 30	浦 和典
学部 19	酒井 哲	学部 24	甲斐田 雄三	学部 30	木村 直樹
学部 19	薩本 猛夫	学部 24	金野 正英	学部 30	野中 秀樹
学部 19	菅原 義文	学部 24	中村 博	学部 31	井上 勝康
学部 19	田中 義和	学部 24	野見山 隆志	学部 31	金丸 逸郎
学部 19	中村 光昭	学部 24	畑野 耕逸	学部 31	釜我 利彦
学部 19	矢野 博文	学部 24	山本 洋市	学部 31	岸川 泉徳
学部 19	山野 セツ子	学部 24	吉田 均	学部 31	北浦 弘徳
学部 20	井口 篤子	学部 25	上田 直	学部 31	平島 晃二
学部 20	井芹 護	学部 25	宇野 芳晴	学部 31	山岡 千秋
学部 20	内川 博文	学部 25	小城 政文	学部 32	稲富 日樹
学部 20	河野 泰樹	学部 25	辻 二男	学部 32	森 日出樹
学部 20	坂木 茂美	学部 25	中尾 宏幸	学部 33	東 浩文
学部 20	佐藤 芳和	学部 25	松下 康幸	学部 33	古野 真一郎
学部 20	武野 勝次	学部 25	三木 修	学部 34	赤木 浩一
学部 20	西橋 時男	学部 25	三石 信志	学部 34	河野 和寛
学部 20	橋本 俊介	学部 25	宮川 博幸	学部 34	中村 敏幸
学部 20	松本 康	学部 25	宮崎 一郎	学部 35	荒嶽 敏
学部 20	藤原 慎一郎	学部 25	城見 浩一	学部 35	白居 のぞみ
学部 20	藤野 進	学部 25	野口 弘	学部 35	波戸 省
学部 20	山内 朗	学部 25	松村 弘	学部 35	林田 圭史
学部 21	井上 直樹	学部 25	窪田 完二	学部 35	堀田 毅
学部 21	岩倉 史佳	学部 25	高橋 亨	学部 35	山崎 慶子
学部 21	小野 等	学部 26	池田 研二	学部 36	市田 孝二
学部 21	佐藤 洋二	学部 26	今泉 一隆	学部 36	井上 順二
学部 21	田中 健一	学部 26	竹内 浩一	学部 36	松尾 真也
学部 21	内藤 幸雄	学部 27	福田 和太	学部 37	窪田 昌洋
学部 21	百武 兼義	学部 27	古川 清	学部 38	中村 直人
学部 21	平山 修	学部 27	古瀬 稔	学部 38	香山 明子
学部 21	山口 康一	学部 28	保田 泰	学部 39	村田 瑞枝
学部 21	吉田 綱一郎	学部 28	山中 虎男	学部 39	小山 貴子
学部 22	有馬 慎太郎	学部 28	大久保 健	学部 40	小宮 崎貴
学部 22	井上 正則	学部 28	河内 優子	学部 40	今橋 義孝
学部 22	岩崎 茂	学部 28	川崎 圭一	学部 41	松岡 利秀
学部 22	川内 静久	学部 28	川崎 比呂史	学部 41	矢野 孝一
学部 22	坂本 修一	学部 28	國廣 昭彦	学部 42	加々山 亮介
学部 22	服部 高行	学部 28	合屋 隆司	学部 42	川口 晃一郎
学部 22	宮本 貫治	学部 28	長岡 健	学部 42	三田 大介
学部 22	荒川 克彦	学部 28	長岡 正道	学部 43	河野 正一郎
学部 23	岩永 秀典	学部 29	中川 和彦	学部 45	小野 正芳
学部 23	小泉 文則	学部 29	藤井 茂樹	学部 51	周 仲
学部 23	林 俊也	学部 29	藤田 克子	学部 52	鼻崎 雄治
学部 23	原田 英博	学部 29	堀内 宇	学部 54	金澤 孝典
				学部 54	川島 幸成
				学部 55	山野 内もと美
				学部 61	戸次 悠介
				学部 63	西窪 浩祐
				学部 63	山崎 真由美
				大学院 14	山永 博志
				大学院 15	西崎 信男
				大学院 16	中村 奈美

令和 6 年度 (2024 年度) 支部への寄付者ご芳名

(2025 年 1 月末現在)

卒回	御芳名
学 8	西山 正昭
学 9	伊津野 平
学 9	大久保 哲夫
学 9	中村 正晴
学 10	光永 久之
学 12	澤部 壽孫
学 17	草野 耕三
学 18	吉田 一久
学 21	小野 等
学 21	田中 健一
学 21	吉田 綱一郎
学 23	松尾 肇
学 23	満崎 周夫
学 23	岩永 秀典
学 24	井上 隆
学 28	山中 虎男
学 28	渡辺 一博
学 28	福田 和太
学 29	中川 和彦
学 29	国広 明彦
学 31	金丸 逸郎
学 34	中村 寛彰
学 45	小野 正芳

(敬称略)

総額：171,848 円

ご寄付いただきありがとうございました。

東京支部 2024 年度決算見込み及び 25 年度予算案

決算：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

予算：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

単位：円

		2023	2024		2025
		決算（実績）	予算	決算（見込）	予算（案）
収入	年会費	1,244,000	1,400,000	1,244,000	1,400,000
	寄付金	215,000	100,000	171,848	100,000
	総会	544,000	630,000	665,000	720,000
	広告				
	賛助金	184,400	200,000	216,133	200,000
	預金金利	16	16	286	286
	助成金				
	業務委託費	300,000	300,000	300,000	300,000
	会合費	0	100,000	189,000	200,000
	雑収	0			
	計	2,487,416	2,730,016	2,786,267	2,920,286
支出	総会	979,919	1,100,000	1,079,508	1,200,000
	会報費	224,352	250,000	250,000	250,000
	業務委託費	500,000	500,000	500,000	500,000
	会合行事	61,502	100,000	225,708	200,000
	通信費	278,911	300,000	297,216	300,000
	旅費交通費	80,530	100,000	53,931	100,000
	家賃	240,000	240,000	240,000	240,000
	光熱費	19,313	30,000	30,000	30,000
	振替手数料	36,249	40,000	40,000	40,000
	事務用品	19,930	20,000	20,000	20,000
	印刷	54,450	30,000	50,000	30,000
	雑費	1,000	20,000	20,000	20,000
	支部運営システム開発		200,000	0	200,000
	計	2,496,156	2,930,000	2,806,363	3,130,000
収支	-8,740	-199,984	-20,096	-209,714	
前期繰越	1,633,581	1,624,841			
次期繰越	1,624,841	1,424,857	1,604,745	1,395,031	

瓊林会東京支部 役員体制

令和5年7月より、下記役員にて、東京支部の運営を行っております。
 「人の集まりやすい支部へ」「東京支部活性化」を目指して、活動しています。
 今後とも、皆様のご協力・ご支援をお願いいたします。

役職名	氏名	卒回
支部長	国広 昭彦	学部29回
副支部長	堀内 宇	学部29回
副支部長	堀田 毅	学部35回
副支部長	中村 奈美	院16回
事務局長	牧野 陽一郎	学部29回
監事	岸川 泉	学部31回
運営委員	中川 和彦	学部29回
運営委員	渡邊 俊介	学部29回

瓊林会東京支部活動を活性化するためには、役員だけでは十分とはいえません。

支部活動を応援していただける方は、お申し出ください。

会報の編集・総会準備など、項目ごとへの応援でも結構です。

また、各回生におかれましては、卒回毎に幹事を選出していただくようお願いいたします。

事務局からのお願い

■同窓会会費の納入のお願い

2025 年度会費の振込票を同封しております。

同窓会は、会員の皆様方の会費で運営されております。できるだけ多くの会員の皆様にご支援いただければ円滑な運営につながります。「人の集まる」魅力的な同窓会を目指して活動してまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

次年度の活動計画作成のため、2026 年 1 月末までに納入頂ければ幸いです。

■会費額／振込先

会費：学部卒 7 0 0 0 円（内訳：本部（公益）3 0 0 0 円＋支部 4 0 0 0 円）

振込先：郵便振替口座 0 0 1 6 0－2－1 5 6 1 7

※同封の振込み用紙をお使いください

■会員情報の登録について

瓊林会東京支部では、ホームページを開設しています。

トップページの右側に配置されている、『会員登録』のボタンを押すと、瓊林会会員移動報告兼登録の欄が出てきますので、まだ会員登録、移動報告、Eメール登録をされていない方はご登録よろしくお願いいたします。

また、同期生の方々の情報をお持ちでしたら、お寄せ下さい。

■東京瓊林 154 号原稿募集

東京支部では、2026 年 3 月発行予定の会報誌「東京瓊林 154 号」の原稿を下記のとおり募集致します。

記

- | | |
|---------------------------------------|-----------|
| 1. 同期会 | 2,000 字以内 |
| 2. クラブ・ゼミ OB・OG 会 | 2,000 字以内 |
| 3. 趣味の会 | 2,000 字以内 |
| 4. 追悼文（東京支部会員に限る）
（故人のお写真もお願いします。） | 2,000 字以内 |
| 5. 旅行記・学生時代の思い出 | 2,000 字以内 |
| 6. コロナ禍に関連する生活・対策・情報等 | 2,000 字以内 |
| 7. 私の近況 | |

■原稿締切：2026 年 1 月末

■原稿送付方法：メール（添付ファイル）で頂けますと編集が簡略化できますので、ぜひお願いいたします。

写真も 1～2 枚添付してください。

卒回（又は、卒業年度）をご記入ください。

会報誌へ広告掲載が可能な方は、事務局へご連絡ください。

■原稿の送付先

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-10-2

長崎県東京産業支援センター 301 号室

メール：info@tokyo-keirin.jp

電話：03-6240-0532

世代を繋ぐ同窓の絆①

～長崎大学経済学部創立 120 周年記念事業～

全国の瓊林会会員が一体となり、瓊林会の総力を挙げて記念事業に取り組み、またこの取組により、全国瓊林会会員の更なる結束が図られ、瓊林会のますますの発展に繋げていきたいと考えております。どうか会員の皆様には、この趣旨にご賛同をいただきまして最大限のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

■ 募金の目的

長崎大学経済学部創立 120 周年記念事業を行うことにより、母校及び瓊林会の発展を通じて社会貢献・地域貢献に寄与することを目的とする。

■ 募金で行う事業内容

- (1) 大学におけるグローバル人材育成。アジア研究、キャリア教育を含めた学生支援及び地域・文化振興など瓊林会事業の展開
- (2) 国の登録有形文化財である瓊林会館等補修費の充当
- (3) 教員の研究成果の発表、専門的研究に対する助成
- (4) 120 周年記念事業に伴う諸費用の充当
- (5) その他

■ 募金の目標額 4,000 万円

- ・募金の区域・対象 この事業の趣旨に賛同していただく個人・団体、企業等
- ・募金の期間 令和 6 年 12 月から令和 7 年 12 月まで
- ・募金の額（1 口以上でお願いします）

高商・経専～学 24	：	1 口	5 千円～1 万円
学 25～学 65	：	1 口	1 万円
学 66～学 72	：	1 口	5 千円
大学院卒	：	1 口	5 千円

■ 募金の対象者

- (1) 長崎大学経済学部の卒業生及び大学院修了生
- (2) 長崎高等商業学校・長崎経済専門学校卒業生
- (3) 長崎大学経済学部の教職員及び元教職員
- (4) 本記念事業に賛同する個人、団体、企業

■ 寄付金の振込み口座

【取扱金融機関】 ＊振込手数料のご負担をお願いします。

○ゆうちょ銀行 振替口座 01820-2-3936 口座名義：公益社団法人瓊林会

○十八親和銀行 新大工町支店 普通預金 口座：1087120

口座名義：公益社団法人瓊林会

世代を繋ぐ同窓の絆②

～長崎大学経済学部創立 120 周年記念事業～

■寄附金に対する税制上の優遇措置 (個人の寄附の場合)

当法人は平成 25 年 12 月 20 日付にて、税額控除対象法人として認定されました。これに伴いお申し込みいただいたご寄附は「特定寄附金」として、すべて所得控除あるいは、税額控除の対象となり、どちらかを選択できます。

後日、当法人から送付する「寄附金受領書」等を控除証明書として、2 月から 3 月の確定申告の際にお手続きください。(住民税の寄附金控除については、お住まいの市区町村にお問い合わせ下さい。)

■ご厚意に対する感謝

ご寄付頂いたすべての方の氏名、法人名を会報誌「瓊林」の「長崎大学経済学部創立 120 周年記念事業寄付者一覧」に掲載し、歴史に末永く留めさせていただきます。

寄附金に関するお問い合わせ先

公益社団法人 瓊林会事務局

〒850-0003 長崎市片淵4丁目2番1号 長崎大学経済学部内

TEL:095-821-4567 FAX:095-821-4569

E-mail:info@keirinkai.or.jp

表紙紹介

「長崎スタジアムシティ」

長崎市は、100年に1回の大変革で、新しく魅力的なまちづくりを進めています。旧長崎造船所幸町工場跡に、昨年10月14日にサッカースタジアム、バスケットアリーナを中心にホテル、ショッピングモール、オフィス棟からなる大型複合施設「長崎スタジアムシティ」が完成しました。試合の無い日も市民に無料開放されており、開業から3ヶ月経過した本年1月14日には、延べ来場者が140万人を突破しました。

全国でも珍しい民間主導のまちづくりプロジェクトは、市内回遊拡大にむけた施設として、新しいシンボルとなっています。オフィス棟には、長崎大学のサテライトキャンパス「長崎大学テクノロジーイノベーションキャンパス」ができ、情報データ科学部から7つの研究室が移転してきました。

編集後記

今年度は、7月の通常総会で100名を越える会員の皆様にお集まり頂きました。

さらに、秋には、日本寮歌祭に支部を上げて参加し、参加校の中で旧制四高に次ぐ人数で、「暁星淡く」を歌い西海の覇者としての健在ぶりをアピールしました。

来年度は、母校創立120周年を迎えます。さらに皆様の交流を深める支部活動を展開してまいります。皆様の積極的なご参加・ご支援のほど、よろしく申し上げます。

本誌発行に当たり、寄稿いただいた皆様、ご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。

引き続き、幅広い年代の皆様からご寄稿いただきたく、お願い申し上げます。

編集担当 牧野 陽一郎 (学 29)

東京瓊林 153 号

2025年3月発行

発行所：瓊林会東京支部

〒160-0004

編集者：牧野 陽一郎 (学 29)

東京都新宿区四谷 1-10-2

長崎県東京産業支援センター 301

誌面作成・デザイン：

電話：03-6240-0352

株式会社 ONE HUNDRED

東京支部のホームページでは、今後とも内容充実を図ってまいりますので、ぜひアクセスしてください。



瓊林会 東京支部

東京瓊林 表紙ギャラリー

東京瓊林



149号

東京瓊林



150号

東京瓊林



151号

東京瓊林



152号